物ノ送達ニ關シテハ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民事訴訟法第百六十九條及第百七十一條ノ規定ヲ準用ス

第五條　訴訟書類、爭訟調停書類、審判書類又ハ審査書類ノ郵便物ノ送達ヲ爲シタルトキハ郵便送達報告書ハ書留通常郵便ニ依リ之ヲ差出人ニ送付ス

第六條　本令ニ定ムルモノノ外ハ一般ノ規定ニ依ル

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年朝鮮總督府令第七十五號及大正十二年朝鮮總督府令第七號ハ之ヲ廢止ス

郵便法、郵便爲替法、鐵道船舶郵便法、電信法及無線電信法ノ施行ニ關スル件

（明治三十三年九月二十九日 臺灣總督府令第八十號）（改正 大正四年臺灣總督府令第六十三號 昭和三年臺灣總督府令第五十八號）

郵便法、郵便爲替法、鐵道船舶郵便法、電信法、無線電信法及電信線電話線建設條例ヲ臺灣ニ施行セラレタルニ付右施行ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外總テ遞信省令及告示ニ依ル

明治四十年勅令第六十四號ノ施行ニ關スル件（明治四十年四月樺太廳令第二十八號）

明治四十年勅令第六十四號施行ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外遞信省令及告示ニ依ル本令ハ明治四十年四月一日ヨリ施行ス

（參照） 明治四十年勅令第六十四號

郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、鐵道船舶郵便法及電信法ヲ樺太ニ施行スルノ件

郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、鐵道船舶郵便法及電信法ヲ樺太ニ施行ス

附則

本令ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十九年勅令第二百二十九號ノ施行ニ關スル件

（明治三十九年九月一日關東都督府令第四號）

明治三十九年八月勅令第二百二十九號施行ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外總テ遞信省令及告示ニ依ル

（參照） 明治三十九年八月三十日勅令第二百二十九號

關東廳ニ於ケル郵便電信及電話ノ業務ニ關シ郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、鐵道船舶郵便法、電信法、無線電信法及電信線電話線建設條例ノ規定ヲ準用スルノ件

關東廳ニ於ケル郵便電信及電話ノ業務ニ關シテハ郵便法、郵便爲替法、郵便貯金法、鐵道船舶郵便法、電信法、無線電信法、電信線電話線建設條例ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ明治三十九年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

訴訟、審判及審査書類郵便取扱規程（昭和四年九月三十日遞信省公達第八百八十八號）

第一條　訴訟、審判及審査書類郵便物ハ本規定ニ依ルノ外一般ノ規程ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第二條　訴訟、審判又ハ審査書類郵便物ヲ引受ケタルトキハ特殊通常郵便物引受帳及同受領證摘要欄ニ「訴訟」、「審判」又ハ「審査」ト記入スヘシ

書類送達委任簿ヲ用ヒタルトキハ之ト郵便物宛名ヲ對照シ委任簿ニ引受番號ヲ記入取扱者印ヲ押捺ノ上受領證ニ代ヘ之ヲ差出人ニ返付シ郵便物ノ箇數ニ拘ラス一通ノ引受帳ヲ調製スヘシ

前項ノ引受帳ニハ郵便物區別、郵便料及受取人氏名ヲ省略シ郵便物二箇以上ノ場合ハ引受番號欄ニ自何號至何號何箇ト記入スヘシ

第三條　訴訟、審判又ハ審査書類郵便物ヲ配達スルトキハ特殊通常郵便物配達帳摘要欄ニ「訴訟」、「審判」又ハ「審査」ト記入ノ上配達證ノ調製ヲ省略シ郵便物ハ郵便送達報告書用紙（附錄樣式）ト共ニ集配手ニ交付スヘシ

第四條　訴訟、審判又ハ審査書類郵便物ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ配達スヘシ

一　配達ヲ受クヘキ者

（一）名宛人

（二）名宛人不在ナルトキハ事務員、雇人又ハ同居者ニシテ事理ヲ辨識スルニ足ルヘキ知能ヲ具フル者

二　配達スヘキ場所

（一）宛　所

（二）宛所以外ノ住所、居所、營業所又ハ事務所

（三）名宛人ニ出會ヒタル場所（名宛人ニ於テ受取ヲ拒マサル場合ニ限ル）

第五條　配達ヲ受クヘキ者正當ノ事由ナクシテ受取ヲ拒ミタルトキハ其ノ配達スヘキ場所ニ之ヲ差置クヘシ

第六條　差出人ノ表示ニ依リ還付ヲ要スルトキ又ハ名宛人内地及樺太以外ノ地ニ移轉シタルトキ郵便物ハ之ヲ差出人ニ還付スヘシ

第七條　集配手訴訟、審判又ハ審査書類郵便物ノ配達ヲ爲シタルトキハ定式ニ依リ郵便送達報告書ヲ調製シ之ヲ郵便主任ニ差出スヘシ

前項ノ郵便送達報告書ハ其ノ記載事項ノ適否ヲ檢査シタル上之ヲ差出人ニ送付シ特殊通常郵便物配達帳餘白ニ日附印ヲ押捺スヘシ

宛所以外ノ場所ニ於テ配達シタルトキハ其ノ場所、名宛人以外ノ者ニ交付シタルトキハ其ノ者ノ氏名、配達スヘキ場所ニ差置タルトキハ受取ヲ拒ミタル者ノ氏名ヲ特殊通常郵便物配達帳餘白ニ記入スヘシ

附　則

第八條　本規程ハ昭和四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治二十四年六月公達第二百三十七號、同七月公達第二百八十三號、同第二百八十四號、同第二百九十號、同十月公達第三百九十九號、明治二十五年五月公達第二百十二號、大正十年十二月公達第千五百四十六號及大正十一年三月公達第三百五十三號ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附錄様式

昭和　年（　）第　號

郵便送達報告書

一、送達スヘキ書類ノ表示
封書　一通
但　書記課發
受送達者　宛

書類受領者ノ署名又ハ捺印

一　受送達者本人ニ渡シタリ
受送達者不在ニ付事理ヲ辨識セル左ノ者ニ渡シタリ

二　事務員
雇人
同居者

三　左ノ者正當ノ事由ナクシテ受取ヲ拒ミタルニ付其ノ場ニ差置キタリ
受送達者
事務員
雇人
同居者

送達ノ年月日時　昭和　年　月　日午　時　分

送達ノ場所

右ノ通送達候
昭和　年　月　日
郵便局
集配手

注意｛書類受領者署名又ハ捺印不能ノ時ハ同署名捺印欄ニ共ノ旨記入ノコト
送達ノ場所欄ニハ市町村字番地ヲ詳記ノコト
（一）（二）（三）ノ欄中不要ノ欄ハ抹消ノコト

特許法、實用新案法、意匠法、商標法及辨理士法ヲ臺灣、朝鮮及樺太ニ施行スルコトニ關スル法令

特許法、意匠法及商標法ヲ臺灣ニ施行スルノ件　二八一
實用新案法ヲ臺灣ニ施行スルノ件　二八三
特許法等ヲ朝鮮ニ施行スルノ件　二八五
特許法、意匠法及實用新案法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件　二八七
商標法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件　二八九
辨理士法ヲ朝鮮及臺灣ニ施行スルノ件　二九一
特許法外四件ヲ樺太ニ施行スルノ件　二九三

特許法、意匠法及商標法ヲ臺灣ニ施行スルノ件

（明治三十二年六月二十一日勅令第二百九十號）

特許法、意匠法及商標法ヲ明治三十二年七月一日ヨリ臺灣ニ施行ス

實用新案法ヲ臺灣ニ施行スルノ件（明治三十八年六月三十日勅令第百九十號）

實用新案法ハ之ヲ臺灣ニ施行ス

附則

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

特許法等ヲ朝鮮ニ施行スルノ件（明治四十三年八月二十九日勅令第三百三十五號）

左ニ掲クル法律ハ之ヲ朝鮮ニ施行ス

一　特許法

二　意匠法

三　實用新案法

四　商標法

五　著作權法

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

特許法、意匠法及實用新案法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件

（明治四十三年八月二十九日勅令第三百三十六號）

第一條　本令施行前特許法、意匠法又ハ實用新案法ニ依リ發生シタル特許權、意匠權又ハ實用新案權ノ效力ハ朝鮮ニ於テ同一ノ事項ニ付特許權、意匠權又ハ實用新案權ヲ有スル者アル場合ニ於テハ朝鮮ニ及ハサルモノトス

第二條　韓國特許令、韓國意匠令又ハ韓國實用新案令ニ依リ發生シタル特許權、意匠權又ハ實用新案權ハ特許法、意匠法又ハ實用新案法ニ依リ發生シタルモノト看做ス

前項ノ特許權、意匠權又ハ實用新案權ノ效力ハ本令施行前同一ノ事項ニ付特許法、意匠法又ハ實用新案法ニ依リ發生シタル特許權、意匠權又ハ實用新案權ヲ有スル者アル場合ニ於テハ朝鮮以外ニ及ハサルモノトス

第三條　本令施行ノ際同一人ニシテ同一發明ニ付特許法及韓國特許令ニ依リ發生シタル特許權ヲ有スルトキハ其ノ存續期間ノ短キモノハ消滅スルモノトス

第四條　特許法ニ依リ發生シタル特許權ノ效力ハ朝鮮ニ於テ、第二條第一項ノ規定ニ依ル特許權ノ效力ハ朝鮮以外ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ及ハス

一　本令施行ノ際現ニ其ノ發明實施ノ事業ヲ爲シ若ハ設備ヲ有スル者又ハ其ノ承繼人ノ特

許發明ノ實施

二　本令施行ノ際現存スル物及前號ニ依リ製作シタル物

第五條　韓國特許令ニ依リテ爲シタル處分、手續其ノ他ノ行爲ハ特許法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス

第六條　前三條ノ規定ハ意匠又ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

第七條　韓國特許令、韓國意匠令及韓國實用新案令ハ之ヲ廢止ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（明治四十四年三月帝國議會承諾）

商標法ヲ朝鮮ニ施行スルコトニ關スル件（明治四十三年八月二十九日勅令第三百三十七號）

第一條　本令施行ノ際同一人ニシテ同一商品ニ使用スヘキ類似商標ニ付商標法及韓國商標令ニ依リ發生シタル商標權ヲ有スル場合ニ於テハ其ノ商標ハ聯合商標トス

第二條　商標法ニ依リ發生シタル商標權ハ朝鮮ニ於テ、韓國商標令ニ依リ發生シタル商標權ハ朝鮮以外ニ於テ本令施行後六月間ハ其ノ商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ使用シタル商品ヲ交付若ハ販賣シ又ハ交付若ハ販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三條　商標カ商標法第二條第四號又ハ第五號ニ該當スル場合ニ於テハ商標法ニ依リ發生シタル商標權ハ朝鮮ニ於テ、韓國商標令ニ依リ發生シタル商標權ハ朝鮮以外ニ於テ其ノ效力ヲ有セス

第四條　明治四十三年勅令第三百三十六號第一條乃至第三條及第五條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

第五條　韓國商標令ハ之ヲ廢止ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（明治四十四年三月帝國議會承諾）

辨理士法ヲ朝鮮及臺灣ニ施行スル件

沿革略記

○朝鮮ニ於ケル特許辨理士ニ關スル件（明治四十三年八月二十九日勅令第三百三十九號朝鮮ニ於ケル特許辨理士ニ關スル件ヲ以テ公布同年同月同日ヨリ施行）

○辨理士法ヲ朝鮮及臺灣ニ施行スルノ件（大正十一年一月二十三日勅令第九號辨理士法ヲ朝鮮及臺灣ニ施行スルノ件ヲ以テ公布同年同月同日ヨリ施行）

辨理士法ヲ朝鮮及臺灣ニ施行スルノ件（大正十一年一月二十三日勅令第九號）

辨理士法ハ之ヲ朝鮮及臺灣ニ施行ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

特許法外四件ヲ樺太ニ施行スルノ件（大正十二年六月十四日勅令第三百十一號）

左ニ掲クル法律ハ大正十二年七月一日ヨリ樺太ニ之ヲ施行ス

特許法

實用新案法

意匠法

商標法

辨理士法

關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケル特許權、實用新案權、意匠權、商標權及著作權ノ保護ニ關スル件

關東州ニ於ケル特許權、實用新案權、意匠權、商標權及著作權ノ保護ニ關スル件　二九五
帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケル特許權、意匠權、商標權、實用新案權及著作權ノ保護ニ關スル件　二九七

關東州ニ於ケル特許權、實用新案權、意匠權、商標權及著作權ノ保護ニ關スル件

沿革略記

○關東州ニ於ケル特許權、意匠權、商標權及著作權ノ保護ニ關スル件

（明治四十一年八月十三日勅令第二百一號關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケル特許權、意匠權、商標權及著作權ノ保護ニ關スル件ヲ以テ公布同年八月十六日ヨリ施行）

改正　（明治四十二年勅令第三百十一號ヲ以テ同勅令中改正）

○關東州ニ於ケル特許權、意匠權、商標權、實用新案權及著作權ノ保護ニ關スル件

（明治四十四年五月二十六日勅令第百六十七號明治四十一年勅令第二百一號改正ノ件ヲ以テ公布同年五月二十八日ヨリ施行）

○關東州ニ於ケル特許權、實用新案權、意匠權、商標權及著作權ノ保護ニ關スル件

（昭和四年十一月十六日勅令第三百二十四號關東州ニ於ケル特許權、實用新案權、意匠權、商標權及著作權ノ保護ニ關スル件ヲ以テ公布同年十二月一日ヨリ施行）

關東州ニ於ケル特許權、實用新案權、意匠權、商標權及著作權ノ保護ニ關スル件

第一條　特許權、實用新案權、意匠權、商標權及著作權ノ效力ハ關東州ニ及フモノトス

第二條　特許法、實用新案法、意匠法、商標法及著作權法中ノ罪ニ關スル規定ハ關東州ニ在ル者ニ對シ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ昭和四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケル特許權、意匠權、商標權、實用新案權及著作權ノ保護ニ關スル件

沿革略記

○帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケル特許權、意匠權、商標權及著作權ノ保護ニ關スル件　（明治四十一年八月十三日勅令第二百一號關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケル特許權、意匠權、商標權及著作權ノ保護ニ關スル件ヲ以テ公布同年八月十六日ヨリ施行）

改正　（明治四十二年勅令第三百十一號ヲ以テ同勅令中改正）

○帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケル特許權、意匠權、商標權、實用新案權及著作權ノ保護ニ關スル件　（明治四十四年五月二十六日勅令第百六十七號明治四十一年勅令第二百一號改正ノ件ヲ以テ公布同年五月二十八日ヨリ施行）

改正　（昭和四年勅令第三百二十五號ヲ以テ同勅令中改正）

帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケル特許權、意匠權、商標權、實用新案權及著作權ノ保護ニ關スル件

第一條　帝國臣民カ帝國ニ於テ享有スル特許權、意匠權、商標權、實用新案權及著作權ノ效力ハ帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民ニ及フモノトス

（昭和四年勅令第三百二十五號ヲ以テ本條中改正同年十二月一日ヨリ施行）

第二條　特許法、意匠法、商標法、實用新案法及著作權法中ノ罪ニ關スル規定ハ帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民ニ對シ之ヲ適用ス

（昭和四年勅令第三百二十五號ヲ以テ本條中改正同年十二月一日ヨリ施行）

附則

本令ハ明治四十四年五月二十八日ヨリ之ヲ施行ス

工業所有權保護ニ關スル條約

巴里同盟條約及附屬議定書　二九九
日本秘露共和國通商航海條約　三一三
追加日清通商航海條約　三一五
日本國暹羅國間通商航海條約　三一七
清國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ相互保護ニ關スル日米條約　三一九
清國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ相互保護ニ關スル日佛條約　三二一
支那ニ於ケル工業所有權相互保護ニ關スル日本瑞典條約　三二三

千九百年十二月十四日菲律悉及千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約及附屬議定書

沿革略記

○明治三十二年七月十三日勅令無號ヲ於テ千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約及附屬議定書ヲ公布シ同年外務省告示第九號ヲ以テ明治三十二年七月十五日ヨリ加入ノ效力發生ノ旨告示ス

○明治三十五年八月十八日勅令無號ヲ以テ萬國工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ條約及附屬議定書ヲ修正スル追加條約ヲ公布シ同年同月同日外務省告示第九號ヲ以テ同年九月十四日ヨリ其ノ效力發生ノ旨告示ス

○大正二年四月十一日條約第二號ヲ以テ千九百年十二月十四日菲律悉及千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約及附屬議定書ヲ公布シ同年五月一日農商務省告示第二百六十四號ヲ以テ同年五月一日ヨリ效力發生ノ旨告示ス

千九百年十二月十四日菲律悉及千九百十一年六月二日華盛頓ニ於テ改正セラレタル工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ巴里同盟條約及附屬議定書

第一條　締約國ハ工業所有權保護ノ爲玆ニ同盟ヲ組織ス

第二條　各締約國ノ臣民又ハ人民ハ他ノ總テノ同盟國内ニ於テ發明特許、實用新案、工業的意匠又ハ雛形、製造標又ハ商標、商號、原産地ノ表示及不正競爭ノ取締ニ關シ各其ノ國法カ内國人ニ對シ現ニ許與シ又ハ將來許與スヘキ利益ヲ享受スヘシ故ニ該臣民又ハ人民ハ内國人ノ遵由スヘキ手續及條件ヲ遵守スルニ於テハ内國人ト同一ノ保護ヲ受ケ其ノ權利ノ侵害ニ對シテモ亦總テ内國人ト同一ノ訴權ヲ有スヘシ但シ保護ヲ受ケムトスル國内ニ住所又ハ營業所ヲ有スヘキ何等ノ義務ヲモ同盟國人ニ課スルコトヲ得ス

第三條　同盟ニ加入セサル國ノ臣民又ハ人民ニシテ同盟國中ノ一國ノ版圖内ニ住所ヲ有シ又ハ現實且眞誠ナル工業的若ハ商業的營業所ヲ有スル者ハ締約國ノ臣民又ハ人民ニ準スヘキモノトス

第四條　甲　締約國中ノ一國ニ於テ合式ニ發明ノ特許出願、實用新案、工業的意匠若ハ雛形

又ハ製造標若ハ商標ノ登錄出願ヲ爲シタル者又ハ其ノ承繼人ハ他ノ締約國ニ於テ出願ヲ爲スニ當リ第三者ノ權利ヲ留保シテ下ニ定ムル期間優先權ヲ享有スヘシ

乙　故ニ右期間滿了前他ノ締約國ニ於テ爲シタル後ノ出願ハ其ノ中間ニ於テ遂行セラレタル事實殊ニ他ノ出願アリタルコト、其ノ發明ヲ公ニシ若ハ實施シタルコト、意匠若ハ雛形ノ模本ヲ發賣シタルコト又ハ標章ヲ使用シタルコトニ因リ無效ト爲ルコトナシ

丙　前記優先權ノ期間ハ發明特許及實用新案ニ在リテハ十二月、工業的意匠又ハ雛形及製造標又ハ商標ニ在リテハ四月トス

丁　先ノ出願ニ基ク優先權ヲ主張セムトスル者ハ該出願ノ日附及國名ヲ示シタル宣言ヲ爲スノ義務ヲ有ス各國ハ何時迄ニ右ノ宣言ヲ爲スヘキカヲ定ムヘシ其ノ宣言事項ハ當該官廳ヨリ發行スル刊行物殊ニ特許及其ノ明細書ニ關スル刊行物ニ掲載スヘシ各締約國ハ優先權ノ宣言ヲ爲ス者ヲシテ先ノ願書（明細書、圖面其ノ他）ノ謄本ニシテ之ヲ受理シタル官廳ノ認證アルモノヲ提出セシムルコトヲ得該謄本ニハ一切公證ヲ要セス但シ官廳ノ出願日附證明書及譯文ヲ添附セシムルコトヲ得出願ノ際ニ於ケル優先權ノ宣言ニ對シテハ右ノ外何等ノ手續ヲモ要求スルコトヲ得ス本條ニ定ムル手續ノ懈怠ノ效果ハ各締約國ノ定ムル所ニ依ル但シ優先權ノ喪失ヲ以テ限度トス

戊　他ノ疏明書ハ其ノ後之ヲ提出セシムルコトヲ妨ケス

第四條ノ二　第二條及第三條ノ規定ニ依リ本條約ノ利益ヲ享受スル者カ各締約國ニ出願シテ得タル特許ト同一ノ發明ニ付他ノ締約國又ハ締約國外ノ國ニ於テ得タル特許トハ互ニ獨立ノモノタルヘシ

前項ノ規定ハ絕對的ノ意味殊ニ無效及失權ノ原因ニ關スルト普通ノ存續期間ニ關スルトヲ問ハス優先期間中ニ出願シタル特許ハ獨立ナリトノ意味ニ解釋スヘシ

第一項ノ規定ハ其ノ實施ノ際存在スル一切ノ特許ニ之ヲ適用ス新ニ加入スル國アル場合ニ於テ其ノ加入ノ際加入國又ハ締約國ニ存在スル特許ニ付亦同シ

第五條　特許證主カ他ノ同盟國ニ於テ製造シタル物品ヲ特許ヲ得タル國ニ輸入スルモ之カ爲ニ特許ノ失權ヲ來スコトナシ

然レトモ特許證主ハ其ノ特許品ヲ輸入スル國ノ法律ニ從ヒ其ノ特許ヲ實施スルノ義務アルモノトス但シ特許ハ同盟國中ノ一國ニ於テハ其ノ國ニ出願ヲ爲シタル日ヨリ起算シテ三年ヲ經過シ且特許證主カ其ノ不作爲ノ事由ヲ疏明セサル場合ノ外ハ不實施ヲ理由トシテ失權ヲ受クルコトナシ

第六條　總テ本國ニ於テ合式ニ登錄ヲ受ケタル製造標又ハ商標ハ他ノ同盟國ニ於テモ其ノ儘出願ヲ許容シ且保護ヲ與フヘシ

然レトモ左ニ掲クル標章ハ之ヲ拒絕シ又ハ無效ト爲スヲ得

一　保護ヲ受ケムトスル國ニ於ケル第三者ノ既得權ヲ害スヘキ性質ノ標章

二　特別顯著ノ性質ヲ具備セル標章及商品ノ種類、品質、分量、用途、價格、出所若ハ製産ノ時期ヲ示ス爲商業上使用スルコトヲ得ル記號若ハ表示又ハ保護ヲ受ケムトスル國ノ商業上ノ通用語若ハ其ノ國ノ公正且不變ナル商慣習ニ於テ常用ト爲リタル記號若ハ表示ヲ以テ專ラ組成シタル標章

標章ノ特別顯著ナル性質ヲ判別スルニ當リテハ事實上ノ一切ノ事情殊ニ標章ノ使用期間ヲ斟酌スヘシ

三　道德又ハ公ノ秩序ニ反スル標章

出願人ノ主タル營業所ノ所在國ハ之ヲ其ノ本國ト看做ス

主タル營業所カ同盟國中ノ一國ニ在ラサルトキハ出願人ノ屬スル國ヲ以テ本國ト看做ス

第七條　製造標又ハ商標ヲ附スヘキ製產物ノ性質ハ如何ナル場合ニ於テモ標章出願ノ妨害ト爲ルコトナシ

第七條ノ二　締約國ハ團體ニシテ其ノ存在カ本國法ニ違反セサルモノニ屬スル標章ノ出願ヲ許容シ且保護ヲ與フヘキコトヲ約ス其ノ工業的又ハ商業的營業所ヲ有セサルモノト雖亦同シ

團體カ其ノ標章ノ保護ヲ受クルニ必要ナル特別條件ハ各其ノ國ノ定ムル所ニ依ル

第八條　商號ハ製造標又ハ商標ノ一部ヲ成スト否トニ拘ラス出願ヲ要スルコトナクシテ各同盟國內ニ於テ保護セラルヘシ

第九條　製造標若ハ商標又ハ商號ヲ不正ニ附シタル製產物ハ其ノ標章又ハ商號カ法律上ノ保護ヲ受クヘキ同盟國內ニ輸入ノ際之ヲ差押フヘシ

法令ニ依リ輸入ノ際差押ヲ許サヽル國ニ於テハ輸入禁止ヲ以テ輸入差押ニ代フヘシ

不正附著ノ行ハレタル國又ハ其ノ製產物ノ輸入セラレタル國ニ於テモ亦之ヲ差押フヘシ

差押ハ檢事局其ノ他ノ當該官廳又ハ利害關係者タル個人若ハ團體ノ請求ニ依リ各其ノ國法ニ從ヒ之ヲ執行スヘシ

通過ノ場合ニ於テハ當該官廳ハ差押ノ義務ナキモノトス

國法上輸入差押、輸入禁止及內地差押ヲ認メサル國ニ於テハ其ノ國法カ同樣ノ場合ニ內國人ニ認ムル訴權及手續ヲ以テ此等ノ處置ニ代フモノトス

第十條　前條ノ規定ハ製產地ノ表示トシテ虛僞ニ一定ノ地名ヲ附シタル總テノ製產物ニ之ヲ適用ス但シ此ノ表示ニ詐欺ノ意思ヲ以テ虛構又ハ借用ノ商號ヲ附加シタルトキニ限ル

右製產物ノ生產、製造又ハ商業ニ從事スル生產者、製造者又ハ商人ニシテ產地トシテ詐稱セラレタル土地又ハ該地所在ノ地方ニ住居スル者ハ總テ之ヲ利害關係者ト看做ス

第十條ノ二　總テノ締約國ハ不正競爭ニ對シ有效ナル保護ヲ同盟國人ニ與フヘキコトヲ約ス

第十一條　各締約國ハ其ノ一國ノ版圖內ニ開設スル官設又ハ官許ノ萬國博覽會ニ出品スル製產物ニ對シ各其ノ國法ニ從ヒ特許ヲ受ケ得ヘキ發明、實用新案、工業的意匠又ハ雛形及製造標又ハ商標ニ假保護ヲ與フヘシ

第十二條　各締約國ハ工業所有權ニ關スル特別ノ事務所ヲ開設シ又發明特許、實用新案、工業的意匠又ハ雛形及製造標又ハ商標ヲ公衆ニ知ラシムル爲中央陳列所ヲ設置スルコトヲ約ス

前項ノ事務所ハ成ルヘク定期刊行ノ公報ヲ發行スヘシ

第十三條　萬國工業所有權保護同盟事務局ナル名稱ヲ以テ「ベルヌ」ニ設立セラレタル萬國事務局ハ瑞西聯邦政府ノ下ニ置レ該政府ハ其ノ組織ヲ定メ且其ノ事務ヲ監督ス

萬國事務局ハ工業所有權ノ保護ニ關スル一切ノ報告ヲ蒐集シテ一般ノ統計ヲ調製シ之ヲ各國官廳ニ配付スヘシ該局ハ同盟ニ關スル一般有益ノ事項ヲ講究シ又諸國ノ官廳ヨリ受領シタル書類ヲ參照シ同盟ノ目的ニ關スル諸問題ヲ佛蘭西語ニテ記載シタル定期刊行物ヲ編纂スヘシ

右刊行物及萬國事務局ニ於テ發行スル他ノ一切ノ書類ハ下ニ記載スル經費分擔額ニ比例スル部數ヲ同盟國ノ官廳ニ配付スヘシ但シ右ノ部數以外ニ定期刊行物其ノ他ノ書類ヲ請求スル場合ニ於テハ前記官廳タルト團體又ハ個人タルト問ハス別ニ代償ヲ支拂フヘキモノトス

萬國事務局ハ常ニ工業所有權ニ關スル國際事務問題ニ付同盟國ノ爲必要アル特殊報告ヲ供スルコトヲ怠ラサルヘク又其ノ所管事務ニ付每年報告書ヲ作リ之ヲ總テノ同盟國ニ報告スヘシ

萬國事務局ノ公用語ハ佛蘭西語トス

萬國事務局ノ經費ハ締約國ノ共同負擔トシ如何ナル場合ニ於テモ每年總額六萬法ヲ超過スルコトヲ得ス

經費總額ニ對シ各國ノ醵出割合ヲ定ムル爲締約國及將來同盟ニ加入スヘキ國ヲ六等ニ區分

シ各等ノ醵出スヘキ部數ノ比例ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一等　二十五部
第二等　二十部
第三等　十五部
第四等　十部
第五等　五部
第六等　三部

右ノ系數ニ各等ノ國數ヲ乘シテ得タル積ノ和ヲ部ノ總數トシ之ヲ以テ經費總額ヲ除シタルモノヲ一部ニ對スル經費分擔額トス

各締約國ハ加入ノ際自國ノ加ハラムトスル等級ヲ指定スヘシ

瑞西聯邦政府ハ萬國事務局ノ支出ヲ監督シ必要ナル立替ヲ爲シ且毎年出納ヲ計算シテ之ヲ他ノ總テノ締約國ノ官廳ニ報告スヘシ

第十四條　本條約ハ同盟制度ヲ完全ナラシムヘキ改良ヲ加ヘムカ爲時々改正ヲ施スヘシ

右ノ目的ヲ達スル爲締約國ノ委員ハ逐次其ノ一國ニ於テ會議ヲ開クヘシ

會議ヲ開クヘキ國ノ官廳ハ萬國事務局ノ協力ニ依リ該會議ノ準備ヲ爲スヘシ

萬國事務局長ハ會議ニ列席シテ討議ニ加ハルコトヲ得ルモ表決權ヲ有セス

第十五條　締約國ハ本條約ノ規定ニ牴觸セサル限リ各國間互ニ工業所有權ノ保護ニ關スル特殊ノ取極ヲ爲スノ權利ヲ留保スルモノトス

第十六條　本條約ニ加入セサル國ハ其ノ請求ニ依リ之ニ加入スルコトヲ得

右ノ加入ハ外交上ノ手續ニ依リ瑞西聯邦政府ニ之ヲ通告シ該政府ハ更ニ之ヲ他ノ締約國ニ通告スヘシ

新ニ加入スル國ハ當然本條約ノ全部ニ贊同シタルモノトシ本條約ニ規定スル一切ノ利益ヲ享受スヘシ該加入ハ瑞西聯邦政府カ他ノ締約國ニ對シテ爲シタル通告ノ發送ヨリ一月ヲ經タル後其ノ效力ヲ生ス但シ加入國ニ於テ其ノ以後ノ日附ヲ指定シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六條ノ二　締約國ハ其ノ殖民地、領土、屬地、保護領又ハ其ノ中ノ一部ノ爲何時ニテモ本條約ニ加入スルノ權利ヲ有ス

締約國ハ之カ爲其ノ總テノ殖民地、領土、屬地及保護領ヲ概括的宣言ヲ以テ加入セシメ又ハ加入セシムル部分ヲ明示的ニ指定シ若ハ加入セシメサル部分ノミヲ指定スルコトヲ得

右ノ宣言ハ書面ヲ以テ之ヲ瑞西聯邦政府ニ通告シ該政府ハ之ヲ他ノ總テノ同盟國ニ通告ス

締約國ハ前同樣ノ條件ヲ以テ其ノ殖民地、領土、屬地、保護領又ハ其ノ中ノ一部ノ爲本條約ヲ廢棄スルコトヲ得

第十七條　本條約ノ相互的約束ノ履行ニ付必要アルトキハ締約國ハ各其ノ憲法所定ノ條規ニ從ヒ成ルヘク速ニ相當ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條ノ二　本條約ハ廢棄ヲ爲シタル日ヨリ一年ノ期間滿了ニ至ル迄無期限ニ其ノ效力ヲ有ス

右廢棄ハ瑞西聯邦政府ニ之ヲ通知スヘシ廢棄ハ之ヲ爲シタル國ニ對シテノミ其ノ效力ヲ生シ其ノ他ノ締約國間ニ於テハ本條約ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第十八條　本條約ハ批准ヲ要ス其ノ批准書ハ遲クトモ千九百十三年四月一日迄ニ華盛頓ニ之ヲ寄託スヘク本條約ハ右期限後一月ヲ經テ批准ヲ爲シタル國ノ間ニ實施セラルヘシ

本條約及最終議定書ハ之ヲ批准シタル國ノ間ニ於テハ千八百八十三年三月二十日ノ巴里條約同附屬最終議定書、萬國事務局ノ經費分擔ニ關スル千八百九十一年四月十五日ノ馬德里議定書及千九百年十二月十四日ノ菲律悉追加條約ニ代ハルモノトス但シ本條約ノ批准ヲ爲サザル國ノ間ニ於テハ前記諸條約ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第十九條　本條約ハ一通ノ正本ニ署名シテ之ヲ合衆國記錄局ニ寄託シ合衆國政府ハ其ノ認證

謄本一通ヲ各同盟國政府ニ交付ス

最終議定書

第一條ニ付「工業所有權」ナル語ハ其ノ最廣キ意味ニ解スヘク農產業（葡萄酒、穀物、果實、畜類其ノ他）及採取產業（鑛物、鑛泉其ノ他）ノ範圍ニ屬スル一切ノ生產物ニモ及フモノトス

第二條ニ付　甲　發明特許ナル名稱ノ中ニハ製造方法ニ關スルト生產物ニ關スルトヲ問ハス締約國ノ國法ニ依リ許與セラレタル諸種ノ工業的特許即チ輸入特許、改良特許等ヲ包含ス

乙　同盟國民ニ對シ住所及營業所ヲ有スル義務ヲ免除スル第二條ノ規定ハ解釋的性質ヲ有スルモノトス從テ該規定ハ本條約ノ實施前千八百八十三年三月二十日ノ條約ニ基キ發生シタル一切ノ權利ニ適用スルモノトス

丙　第二條ノ規定ハ訴訟手續及裁判管轄竝特許法、實用新案法、商標法等ニ於テ必要トスル住所ノ選定又ハ代理人ノ選任ニ關スル各締約國ノ法律ニ何等ノ影響ヲ及ホサザルモノトス

第四條ニ付　實用新案ノ出願ニ基ク優先權ニ依リ一國ニ於テ工業的意匠又ハ雛形ノ出願ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ優先期間ハ工業的意匠及雛形ニ付第四條ニ定メタル優先期間トス

第六條ニ付　第六條第一項ノ規定ハ出願人ヲシテ本國ノ當該官廳ヨリ下付セラレタル合式ナル登錄ノ證明書ヲ提出セシムルノ權利ヲ除外セサルモノトス

當該官廳ノ承認ヲ受ケサル公ノ紋章、徽章若ハ勳章ノ使用又ハ同盟國ノ監督用若ハ證明用ノ官ノ記號及刻印ノ使用ハ之ヲ以テ第六條第三號ノ意味ニ於ケル公ノ秩序ニ反スルモノト看做スコトヲ得

然レトモ當該官憲ノ承認ヲ受ケテ公ノ紋章、勳章又ハ徽章ノ複製ヲ包含セシメタル標章ハ公ノ秩序ニ反スルモノト看做サス

標章カ商標法ノ規定ニ適合セサルヲ唯一ノ理由トシテ公ノ秩序ニ反スルモノト看做スコトヲ得ス但シ其ノ規定カ公ノ秩序ニ關スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

本議定書ハ本日締結シタル本條約ト同時ニ批准セラルヘキモノニシテ右條約ノ一部ヲ成シ且之ト同一ノ效力價値及期間ヲ有スルモノトス

本條約及附屬議定書ニ對シ批准ヲ爲シタル國及批准期限後加入シタル國左ノ如シ（千九百三十一年九月現在）

獨逸國、濠洲聯邦（「パプア」及委任統治地域「ニユーギニア」ヲ含ム）、墺地利國、白耳義國、伯剌西爾國、勃牙利國、加奈陀、玖馬國、丁抹國（「フエロエ」島ヲ含ム）、ダンチツヒ（自由市）、ドミニカ（共和國）、西班牙國（西班牙領「モロツコ」）、エストニア國、亞米利加合衆國、芬蘭國、佛蘭西國（「アルゼリー」、（佛蘭西殖民地）、大不列顚國（錫蘭、「トリニダード」及「トバゴ」）、希臘國、洪牙利國、愛蘭（自由國）、伊太利國、日本國、ラトヴイア國、ルクセンブルグ國、モロツコ國（佛領）、墨西哥國、諾威國、和蘭國（蘭領印度、「スリナム」及「クラサオ」）、波蘭國、葡萄牙國、（「アソール」及「マデール」ヲ含ム）、羅馬尼國、瑞典國、瑞西國、シリア及レバノン、チエツコスロヴアキア國、チユニス國、土耳古國、ユーゴースラヴイヤ國、新西蘭（委任治地域西部「サモア」）

日本秘露共和國通商航海條約

沿革略記

○明治二十八年三月二十日亞米利加合衆國華盛頓ニ於テ兩國全權委員記名調印シ明治三十年一月九日勅令無號日本秘露共和國通商航海條約ヲ以テ公布

日本秘露共和國通商航海條約（拔萃）

第十六條　兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ領土内ニ於テ法律ニ定ムル所ノ手續ヲ履行スルトキハ專賣特許、商標及意匠ニ關シ内國臣民或ハ人民ト同一ノ保護ヲ受クヘシ

追加日清通商航海條約

沿革略記

○明治三十六年十月八日清國上海ニ於テ両國全權委員記名調印シ明治三十七年一月二十日勅令無號追加日清通商航海條約ヲ以テ公布

追加日清通商航海條約（拔萃）

第五條　清國政府ハ清國臣民カ日本國臣民ノ有スル登錄濟商標ヲ侵害スルヲ禁遏スル爲メ必要ナル規則ヲ設ケ且誠實ニ之ヲ執行スヘキコトヲ約ス

清國政府ハ又清國語ヲ以テ編製シ且特ニ清國人ノ使用ニ供スル爲メ作製セラレタル書籍冊子地圖及海圖ニ關シ日本國臣民ノ有スル登錄濟版權ヲ保護スル爲メニ必要ナル規則ヲ制定スヘキコトヲ約ス

清國政府ハ登錄局ヲ設置シ商標及版權保護ノ爲メ今後同國政府ニ於テ制定スヘキ規則ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ保護ヲ求ムル外國商標及版權ノ登錄ヲ爲スヘシ

日本國法律規則ノ定ムル所ニ從ヒ正當ニ登錄セラレタル清國商標及版權ハ日本國ニ於ケル侵害ニ對シ同樣ノ保護ヲ受クルコト勿論タルヘシ

本條ハ清國ノ安寧ヲ害セムトスル公刊物ノ著作者所有主若ハ販賣人タル日本國臣民又ハ清國臣民ヲ法律ノ正當ナル進行ニ對シ庇護スルモノト解スヘカラス

日本國暹羅國間通商航海條約

沿革略記

○大正十三年三月十四日盤谷ニ於テ兩國全權委員署名調印シ大正十三年十二月二十四日條約第十七號日本國暹羅國間通商航海條約ヲ以テ公布

日本國暹羅國間通商航海條約（拔萃）

第十六條　兩締約國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ領域及屬地內ニ於テ法定ノ手續ヲ履行スルニ於テハ特許、商標、商號、意匠及著作權ニ關シ內國臣民又ハ最惠國ノ臣民若ハ人民ト同一ノ保護ヲ享受スヘシ

清國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ相互保護ニ關スル日米條約

沿革略記

○明治四十一年五月十九日亞米利加合衆國華盛頓ニ於テ兩國全權委員記名調印シ八月六日批准交換ヲ經同年八月十三日條約第五號淸國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ相互保護ニ關スル日米條約ヲ以テ公布

清國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ相互保護ニ關スル日米條約

第一條　締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民カ他ノ一方ノ當該官衙ニ於テ特許ヲ受ケタル發明又ハ登錄ヲ受ケタル意匠若ハ商標ハ清國各地ニ於テ右他ノ一方ノ臣民又ハ人民ノ侵害ニ對シ右他ノ一方ノ版圖內ニ於ケルト同一ノ保護ヲ享受スヘシ

第二條　締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ文學及美術ノ著作物並寫眞ノ著作權ニ付清國內ニ於テ他ノ一方ノ版圖內ニ於ケルト同一程度ノ保護ヲ享受スヘシ

第三條　締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民カ本條約ニ依リ保護ヲ受クヘキ特許發明、登錄意匠、登錄商標又ハ著作權ヲ侵害シタルトキハ被害者ハ加害者所屬國ノ當該裁判所又ハ領事館ニ於テ其ノ國ノ臣民又ハ人民ト同一ノ權利及保護ヲ享受スヘシ

第四條　兩締約國ハ商號ノ保護ニ付千八百八十三年三月二十日巴里ニ於テ調印セラレタル萬國工業所有權保護同盟條約ニ依リ其ノ版圖內ニ於テ對手國ノ臣民又ハ人民カ受クルト同一ノ取扱ヲ清國內ニ於テ右對手國ノ臣民又ハ人民ニ付與スヘキコトヲ約ス

行名ハ本條約ノ適用上之ヲ商號ト看做スヘシ

第五條　本條約ノ適用上韓國臣民ハ日本國臣民ト、亞米利加合衆國ノ所屬地ノ人民ハ米國人民ト清國内ニ於テ同一ノ取扱ヲ受クヘキモノトス

第六條　兩締約國ハ其ノ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル他國ニ關シ成ルヘク本條約ノ規定ヲ準用スヘキコトヲ約ス

本條約ヨリ生スル一切ノ權利ハ兩締約國ノ所屬地及租借地ニ於テモ尊重セラルヘク右權利ノ侵害ニ對スル法律上ノ救濟ハ加害者所屬國ノ當該裁判所ニ於テ之ヲ與フルモノトス

第七條　本條約實施ノ際本條約ノ保護スル他人ノ商標又ハ之ニ類似スルモノヲ不正ニ附シタル商品ヲ有スル者ハ右實施後六月ヲ限リ其ノ商標ヲ除去シ若ハ抹消スルカ又ハ該商品ヲ清國市場ヨリ撤去スルコトヲ要ス

第八條　締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民カ明治三十九年五月十日以後公ニシタル文學及美術ノ著作物竝寫眞ニシテ本條約ニ依リ保護ヲ受クヘキモノヲ本條約實施前清國内ニ於テ許可ナクシテ複製シタル他ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ右實施後一年ヲ限リ該複製物ノ發賣又ハ頒布ヲ廢止スヘキモノトス

第九條　本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換セラルヘシ

本條約ハ批准書交換ノ日ヨリ十日ヲ經タル後韓國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ保護ニ關スル條約ト共ニ實施セラルヘシ

清國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ相互保護ニ關スル日佛條約

沿革略記

○明治四十二年九月十四日東京ニ於テ日佛兩國全權委員署名調印シ明治四十四年五月二十日條約第三號清國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ相互保護ニ關スル日佛條約ヲ以テ公布

清國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ相互保護ニ關スル日佛條約

第一條　締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民カ他ノ一方ノ當該官衙ニ於テ特許ヲ受ケタル發明又ハ登錄ヲ受ケタル意匠若ハ商標ハ清國各地ニ於テ右他ノ一方ノ臣民又ハ人民ノ侵害ニ對シ右他ノ一方ノ版圖内ニ於ケルト同一ノ保護ヲ享受スヘシ

第二條　締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ文學的及美術的著作物竝寫眞ノ著作權ニ付清國内ニ於テ他ノ一方ノ版圖内ニ於ケルト同一程度ノ保護ヲ享受スヘシ

第三條　締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民カ本條約ニ依リ保護ヲ受クヘキ特許發明、登錄意匠、登錄商標又ハ著作權ヲ侵害シタルトキハ被害者ハ加害者所屬國ノ當該裁判所又ハ領事館ニ於テ其ノ國ノ臣民又ハ人民ト同一ノ權利ヲ有シ同一ノ救濟ヲ受クヘシ

第四條　兩締約國ハ商號ノ保護ニ付千八百八十三年三月二十日巴里ニ於テ調印セラレタル萬國工業所有權保護同盟條約ニ依リ其ノ版圖内ニ於テ對手國ノ臣民又ハ人民カ受クルト同一ノ取扱ヲ清國内ニ於テ右對手國ノ臣民又ハ人民ニ付與スヘキコトヲ約ス

行名ハ本條約ノ適用上之ヲ商號ト看做スヘシ

第五條　本條約ノ適用上韓國臣民ハ日本國臣民ト佛蘭西共和國ノ所屬地ノ人民ハ佛蘭西國人民ト清國内ニ於テ同一ノ取扱ヲ受クヘキモノトス

第六條　兩締約國ハ其ノ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル他國ニ關シ成ルヘク本條約ノ規定ヲ準用スヘキコトヲ約ス

本條約ヨリ生スル一切ノ權利ハ兩締約國ノ所屬地及租借地ニ於テモ尊重セラヘク右權利ノ侵害ニ對スル法律上ノ救濟ハ管轄裁判所ニ於テ之ヲ與フルモノトス

第七條　本條約實施ノ際本條約ノ保護スル他人ノ商標又ハ之ニ類似スルモノヲ不正ニ附シタル商品ヲ有スル者ハ右實施後六月ヲ限リ其ノ商標ヲ除去シ若ハ抹消スルカ又ハ該商品ヲ清國市場ヨリ撤去スルコトヲ要ス

第八條　締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民ノ文學的及美術的著作物竝寫眞ニシテ本條約ニ依リ保護ヲ受クヘキモノヲ本條約實施前清國内ニ於テ許可ナクシテ複製シタル他ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ右實施後一年ヲ限リ該複製物ノ發賣又ハ頒布ヲ廢止スヘキモノトス

第九條　本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換セラルヘシ

本條約ハ批准書交換ノ日ヨリ十日ヲ經タル後實施セラルヘシ

支那ニ於ケル工業所有權相互保護ニ關スル日本瑞典條約

沿革略記

○大正五年八月二十四日東京ニテ日本瑞典兩國全權委員署名調印シ大正六年九月十五日條約第一號支那ニ於ケル工業所有權相互保護ニ關スル日本瑞典條約ヲ以テ公布

支那ニ於ケル工業所有權相互保護ニ關スル日本瑞典條約

第一條　締約國ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ當該官衙ニ於テ正當ニ特許ヲ受ケタル發明又ハ登錄ヲ受ケタル意匠、製造標若ハ商標ハ支那各地ニ於テ右他ノ一方ノ臣民ノ侵害ニ對シ右他ノ一方ノ版圖内ニ於ケルト同一ノ保護ヲ享受スヘシ

第二條　兩締約國ノ一方ノ臣民カ本條約ニ依リ保護ヲ受クヘキ發明、意匠、製造標又ハ商標ヲ支那ニ於テ侵害シタルトキハ被害者ハ右締約國ノ當該裁判所又ハ當該領事裁判所ニ於テ其ノ國ノ臣民ト同一ノ權利ヲ有シ同一ノ救濟ヲ受クヘシ

第三條　各締約國ハ商號ノ保護ニ付千八百八十三年三月二十日巴里ニ於テ調印ノ萬國工業所有權保護同盟條約及同條約ヲ改正セル千九百年十二月十四日菲律悉ニ於テ調印ノ追加條約ニ依リ其ノ版圖内ニ於テ對手國ノ臣民カ受クルト同一ノ取扱ヲ支那ニ於テ右對手國ノ臣民ニ付與スヘキコトヲ約ス

行名ハ本條約ノ適用上之ヲ商號ト看做スヘシ

第四條　本條約ハ批准ヲ要ス其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換スヘシ

本條約ハ批准書交換後六月ヲ經テ之ヲ實施シ締約國ノ一方カ之ヲ廢棄スルノ意思ヲ表示シタル日ヨリ一年ノ期間ノ滿了ニ至ル迄引續キ效力ヲ有ス

工業所有權戰時法竝附屬法令

工業所有權戰時法　三一五
工業所有權戰時法施行期日ノ件　三一七
工業所有權戰時法施行令　三一九
工業所有權戰時法登錄令　三二三
朝鮮及臺灣ニ工業所有權戰時法施行等ニ關スル件　三二五
工業所有權戰時法施行規則　三三七
工業所有權戰時法登錄令施行規則　三四一
工業所有權戰時法ニ依ル專用權ニ權スル件　三四三

工業所有權戰時法（大正六年七月二十一日法律第二十一號）

第一條　工業所有權ニ關スル敵國人ノ出願又ハ請求ニ付テハ戰時中特許又ハ登錄ヲ停止ス

前項ノ出願又ハ請求ニ係ル發明、意匠又ハ考案カ戰時中左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ出願又ハ請求ニ付テハ特許又ハ登錄ヲ爲サス

一　帝國內ニ於テ公然知ラレ又ハ公然用キラレタルモノ

二　容易ニ應用スルコトヲ得ヘキ程度ニ於テ帝國內ニ頒布セラレタル刊行物ニ記載セラレタルモノ

第二條　敵國人ハ戰時中工業所有權ニ關シ審判若ハ抗告審判ノ請求又ハ抗告審判ニ對スル出訴ヲ爲スコトヲ得ス

第三條　戰時中ニ發生シタル特許權ニ對シテハ敵國人ハ萬國工業所有權保護同盟條約第四條ノ優先權ヲ主張スルコトヲ得ス

第四條　時局ノ關係ニ於テ軍事上又ハ公益上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ敵國人ニ屬スル特許又ハ商標ノ登錄ヲ取消スコトヲ得

第五條　敵國人ニ屬スル特許發明ハ免許ヲ受ケタル者之ヲ專用スルコトヲ得前條ノ規定ニ依

リ取消サレタル特許發明ニ付亦同シ

前項ノ規定ニ依ル專用權ノ存續期間ハ當該特許權ノ殘期間ノ範圍内ニ於テ定メタル期間トス

專用權ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　第四條ノ規定ニ依リ登錄ヲ取消サレタル商標ト同一又ハ類似ノ商標ニシテ同一商品ニ使用スヘキモノハ之ヲ登錄セス

第七條　敵國人ニ非サル者ノ出願、請求若ハ出訴又ハ特許權若ハ商標權ニシテ其ノ利益カ主トシテ敵國人ニ歸スルモノニ付テハ前六條ノ規定ヲ準用ス

第八條　戰爭終了ノ際ニ於ケル必要ナル事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　本法ニ依ル專用權ヲ侵害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

工業所有權戰時法施行期日ノ件（大正六年九月十二日勅令第百四十號）

工業所有權戰時法ハ大正六年九月十五日ヨリ之ヲ施行ス

工業所有權戰時法施行令（大正六年九月十二日 勅令第百四十一號）

第一條　工業所有權戰時法ニ依ル特許又ハ商標登錄ノ取消ハ職權ヲ以テ、特許發明ノ專用免許ハ申請ニ因リ農商務大臣之ヲ爲ス

前項ノ規定ニ依ル處分ハ時局ノ關係ニ於テ軍事上又ハ公益上必要アルトキニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ規定ニ依ル處分ハ農商務部內ノ高等官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ農商務大臣ノ命シタル五人又ハ七人ノ調査委員ノ審査ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

第二條　專用ノ免許ハ同時ニ免許ヲ爲シ又ハ既ニ爲シタル免許ノ趣旨ニ反セサルトキニ限リ數人ニ對シ各別ニ之ヲ爲スコトヲ得

專用ノ免許ニハ條件ヲ附スルコトヲ得

第三條　專用權ハ登錄ニ依リ發生ス

條四條　專用權ノ讓渡ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第五條　專用權ノ讓渡、變更、處分ノ制限、取消若ハ拋棄ニ依ル消滅又ハ專用免許ノ條件ノ附加若ハ變更ハ登錄スルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

專用權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅ニ付亦前項ニ同シ

第六條　專用ノ免許ヲ申請スル者ハ一件毎ニ手數料五十圓ヲ納付スヘシ

第七條　專用權者ハ農商務大臣カ第一條第三項ノ調査委員ノ審査ヲ經テ定メタル標準ニ依リ專用料ヲ納付スヘシ

前項ノ標準ハ當該特許發明ノ實施ニ依ル生産物ノ價額ノ百分ノ三乃至十ノ範圍內ニ於テ之ヲ定ム但シ特別ノ事由アルトキハ之ニ依ラサルコトヲ得

第八條　農商務大臣ハ何時ニテモ專用權者ヲシテ其ノ事業若ハ財産ニ關シ報告ヲ爲サシメ又ハ其ノ事業若ハ財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

第九條　前三條ノ規定ハ國ノ專用ニ付之ヲ適用セス

第十條　專用權者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ農商務大臣ハ專用ノ免許ヲ取消スコトヲ得

一　正當ノ事由ナクシテ專用權發生ノ日ヨリ三月內ニ當該特許發明ノ實施ノ準備ニ着手セサルトキ

二　當該特許發明ヲ適當ニ實施セサルトキ

三　專用免許ノ條件ニ違反シタルトキ

四　專用料ノ納付ヲ怠リタルトキ

五　第八條ノ規定ニ依ル報告ヲ爲サス、不正ノ報告ヲ爲シ又ハ檢査ヲ妨ケタルトキ

農商務大臣軍事上又ハ公益上必要ト認ムルトキハ專用ノ免許ヲ取消スコトヲ得

附　則

本令ハ工業所有權戰時法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

工業所有權戰時法登錄令（大正六年九月十二日勅令第百四十二號）

第一條　左ニ掲クル事項ニ關スル登錄ハ本令ニ依ル

一　工業所有權戰時法ニ依ル特許ノ取消

二　專用免許ノ申請、專用權ノ設定、移轉、變更、處分ノ制限若ハ消滅又ハ專用免許ノ條件ノ附加、變更若ハ除去

三　專用權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅

第二條　特許ノ取消アリタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ

等三條　專用免許ノ申請アリタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ

第四條　左ノ場合ニ於テハ特許局長ハ特許原簿ニ其ノ登錄ヲ爲スヘシ

一　專用ノ免許アリタルトキ

二　專用權讓渡ノ認可アリタルトキ

三　相續ニ因ル專用權ノ移轉ノ屆出アリタルトキ

四　職權ニ因ル專用權ノ變更アリタルトキ

五　專用免許ノ條件ノ附加、變更又ハ除去アリタルトキ

六　專用權ノ存續期間滿了シタルトキ、專用權拋棄ノ屆出又ハ專用免許ノ取消アリタルト

キ其ノ他專用權ノ消滅シタルトキ

第五條　第三條ノ規定ニ依ル登錄ハ專用免許ノ申請ノ却下又ハ取下アリタルトキハ特許局長之ヲ抹消スヘシ

第六條　工業所有權戰時法ニ依ル商標ノ登錄ノ取消ニ關シテハ本令中特許ノ取消ニ關スル規定ヲ準用ス

第七條　工業所有權戰時法ニ關スル登錄ニ付本令ニ規定ナキモノニ付テハ特許登錄令ヲ準用ス

附　則

本令ハ工業所有權戰時法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮及臺灣等ニ工業所有權戰時法施行等ニ關スル件

（大正六年九月十二日 勅令第百四十三號）

第一條　工業所有權戰時法ハ朝鮮及臺灣ニ之ヲ施行ス

第二條　帝國臣民カ工業所有權戰時法第五條ノ規定ニ依リ帝國ニ於テ享有スル專用權ノ效力ハ關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民ニ及フモノトス

第三條　工業所有權戰時法中ノ罪ニ關スル規定ハ關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

附　則

本令ハ工業所有權戰時法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

工業所有權戰時法施行規則（大正六年九月十二日農商務省令第二十二號）

第一條　專用ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ左ノ書面ヲ添附シ農商務大臣ニ申請書ヲ差出スヘシ

一　資力、經驗其ノ他當該特許發明ノ實施ニ適當ナル資格ヲ有スルコトヲ疏明スル書面

二　事業計畫書及收支豫算書

三　申請人カ當該特許發明ニ付利害關係ヲ有スルトキハ其ノ關係ヲ證スルニ足ル書面

四　法人ニ在リテハ定款竝最近ノ財産目錄及貸借對照表

第二條　專用免許申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當該特許發明ノ特許番號、名稱、特許ノ年月日及特許權者ノ氏名又ハ名稱及住所

二　專用セムトスル期間

三　事業期ヲ定メタルトキハ其ノ事業期

四　當該特許發明ノ專用ヲ必要トスル理由

專用免許申請ノ手數料ハ收入印紙ヲ申請書ニ貼付シ之ヲ納付スヘシ

第三條　專用免許ノ申請カ繫屬スル場合ニ於テ當該特許發明ニ付專用免許ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ最先ニ爲サレタル申請ノ公告ノ日ヨリ三十日內ニ之ヲ爲スヘシ

第四條　專用免許ノ申請アリタル場合ニ於テ當該特許發明ニ付利害關係ヲ有スル者ハ最先ニ爲サレタル申請ノ公告ノ日ヨリ三十日內ニ限リ其ノ申請ノ許否ニ關シ意見書ヲ農商務大臣ニ提出スルコトヲ得

第五條　專用免許ノ申請アリタルトキハ特許局長ハ意見書ヲ作リ之ヲ申請書ニ添附スヘシ

第六條　左ノ場合ニ於テハ特許局長ハ其ノ旨ヲ官報及公報ニ公告スヘシ

一　特許又ハ商標登錄取消ノ處分アリタルトキ

二　專用免許ノ申請アリタルトキ

三　專用免許ノ申請ニ付許否ノ處分アリタルトキ

四　專用權ノ消滅シタルトキ

第七條　專用權者ハ每年二月末日迄ニ前年ニ於ケル當該特許發明ノ實施報告書及收支計算書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ但シ別ニ事業期ヲ定メタル場合ニ於テハ其ノ事業期終了後二月內ニ之ヲ差出スヘシ

法人ニ在リテハ前項ノ書類ニ事業報告書ヲ添附スヘシ

第八條　專用料額ノ決定アリタルトキハ特許局長ハ之ヲ專用權者ニ通知スヘシ

專用權者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ收入印紙ヲ以テ特許局ニ專用料ヲ納付スヘシ

第九條　專用權者其ノ事業計畫ヲ變更シタルトキ又ハ其ノ事業ヲ休止シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ農商務大臣ニ屆出ツヘシ

第十條　專用權讓渡ノ認可ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ其ノ原因ヲ證スル書面、發明實施ノ事業ト共ニスル場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證スル書面、發明實施ノ事業ト共ニセサル場合ニ於テハ其ノ事由ヲ疎明スル書面及讓受人ニ關シ第一條各號ニ定メタル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ認可アリタルトキハ讓渡人ハ遲滯ナク認可ノ日ニ至ル迄ノ實施報告書及收支計算書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

相續ニ因ル專用權ノ移轉アリタル場合ニ於テハ其ノ原因ヲ證スルニ足ル書面ヲ添附シ遲滯ナク其ノ旨ヲ農商務大臣ニ屆出ツヘシ

第十一條　專用權消滅シタルトキハ專用權者ハ其ノ消滅ノ日ニ至ル迄ノ實施報告書及收支計算書ヲ添附シ遲滯ナク其ノ旨ヲ農商務大臣ニ屆出ツヘシ

第十二條　敵國人ニ非サル者ノ出願又ハ請求ニ付戰時中特許又ハ登錄ヲ停止スル場合ニ於テハ特許局長ハ其ノ旨ヲ出願人又ハ請求人ニ通知スヘシ

第十三條　敵國人ニ非サル者ニ屬スル特許又ハ商標ノ登錄カ工業所有權戰時法第四條ノ規定ニ依リ取消サレタル場合ニ於テハ特許局長ハ其ノ旨ヲ特許權者又ハ商標權者ニ通知スヘ

シ

前項ノ規定ハ敵國人ニ非サル者ニ屬スル特許發明ニ付專用ヲ免許シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十四條　工業所有權戰時法施行令又ハ本則ノ規定ニ依リ農商務大臣ニ差出スヘキ書類ハ特許局長ヲ經由スヘシ

附　則

本則ハ工業所有權戰時法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

工業所有權戰時法登錄令施行規則（大正六年九月十二日農商務省令第二十三號）

第一條　工業所有權戰時法登錄令ニ依ル特許ノ取消ニ關スル事項ハ特許原簿ノ表示欄ニ之ヲ記載シ專用免許ノ申請、專用權ノ設定、移轉、變更、處分ノ制限若ハ消滅又ハ專用免許ノ條件ノ附加、變更若ハ除去及專用權ヲ目的トスル質權ノ設定、移轉、變更、處分ノ制限又ハ消滅ニ關スル事項ハ特許原簿ノ丙區事項欄ニ之ヲ記載スヘシ

第二條　職權ニ因ル登錄ハ處分、屆出又ハ申請アリタル順序ニ從ヒテ之ヲ爲スヘシ

第三條　特許ノ取消アリタルトキハ原因及其ノ年月日ヲ記載シ特許權ノ表示、表示番號及特許番號ヲ朱抹スヘシ

第四條　專用免許申請ノ登錄ヲ爲スニハ申請書受附ノ年月日、受附番號、申請者ノ氏名又ハ名稱及住所竝申請ノ要旨ヲ記載スヘシ

第五條　專用權設定ノ登錄ヲ爲スニハ專用權者ノ氏名又ハ名稱及住所、免許アリタル旨及其ノ日附、專用ノ期間、條件ヲ附シタルトキハ其ノ條件竝專用料ノ標準ヲ記載スヘシ

第六條　讓渡ニ因ル專用權移轉ノ登錄ヲ爲スニハ讓渡認可申請書受附ノ年月日、受附番號、專用權ノ表示、登錄權利者ノ氏名又ハ名稱及住所、認可アリタル旨及其ノ日附竝登錄ノ目的ヲ記載スヘシ

相續ニ因ル專用權移轉ノ登錄ヲ爲スニハ屆書受附ノ年月日、受附番號、專用權ノ表示、登錄權利者ノ氏名又ハ名稱及住所、原因　其ノ日附竝登錄ノ目的ヲ記載スヘシ

第七條　專用權ノ變更又ハ專用免許ノ條件ノ附加、變更若ハ除去ノ登錄ヲ爲スニハ專用權ノ表示、原因、其ノ日附、變更セラレタル事項又ハ附加、變更若ハ除去セラレタル條件ヲ記載シタル後變更又ハ除去シタル登錄事項ヲ朱抹スヘシ

第八條　專用權消滅ノ登錄ヲ爲スニハ專用權ノ表示、原因及其ノ日附ヲ記載シ專用權ノ登錄ヲ朱抹スヘシ

拋棄ニ因ル專用權消滅ノ登錄ヲ爲スニハ前項ニ記載シタル事項ノ外屆書受附ノ年月日及受附番號ヲ記載スヘシ

第九條　商標ノ登錄ニ關シテハ本則中特許ノ取消ニ關スル規定及明治四十二年勅令第二百九十六號商標ノ登錄ニ關スル件施行規則第八條ノ規定ヲ準用ス

第十條　工業所有權戰時法登錄令ニ依ル登錄ニ關シテハ本則ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外特許登錄令施行規則ヲ準用ス

附　則

本則ハ工業所有權戰時法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

工業所有權戰時法ニ依ル專用權ニ關スル件（大正九年一月十日勅令第九號）

特許權ト其ノ特許發明ニ付工業所有權戰時法ニ依リ發生シタル專用權トハ各別ニ存續ス

前項ノ特許權及專用權カ同一人ニ歸シタルトキハ其ノ專用權ハ消滅ス但シ其ノ特許權又ハ專用權カ第三者ノ權利ノ目的タルトキハ此ノ限ニアラス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

特許局官制、特許局分課規程、特許局陳列館規程及發明奬勵費交付規則

特許局官制　三四五
特許局分課規程　三四九
特許局陳列館規程　三五五
發明奬勵費交付規則　三五九

特許局官制

沿革略記

○農商務省官制（明治十九年三月一日勅令第二號農商務省官制ヲ以テ公布）

○特許局官制（明治二十年十二月二十七日勅令第七十三號特許局官制ヲ以テ公布）

改正（明治二十一年勅令第八十七號ヲ以テ同官制中改正）

○農商務省官制（明治二十三年六月二十一日勅令第百二號農商務省官制ノ改正ヲ以テ公布）

○農商務省官制（明治二十四年七月二十七日勅令第九十四號農商務省官制ノ改正ヲ以テ公布同年八月十六日ヨリ施行）

○農商務省官制（明治二十六年十月三十一日勅令第百四十六號農商務省官制ノ改正ヲ以テ公布同年十一月十日ヨリ施行）

改正（明治二十九年勅令第三百六十三號ヲ以テ同官制中改正）
（明治三十年勅令第八十號ヲ以テ同官制中改正）

○農商務省官制（明治三十年六月十二日勅令第百八十三號農商務省官制ノ改正ヲ以テ公布）

○農商務省官制（明治三十一年十月二十二日勅令第二百八十二號農商務省官制ノ改正ヲ以テ公布同年十一月一日ヨリ施行）

改正（明治三十二年勅令第二百三十六號ヲ以テ同官制中改正）
（明治三十六年勅令第二百三十三號ヲ以テ同官制中改正）

○特許局官制（明治三十六年十二月五日勅令第二百三十四號特許局官制ヲ以テ公布）

改正（明治三十八年勅令第百十九號ヲ以テ同官制中改正）

（明治三十九年勅令第二百十八號ヲ以テ同官制中改正）

（明治四十二年勅令第五十八號ヲ以テ同官制中改正）

（明治四十二年勅令第二百二十號ヲ以テ同官制中改正）

（明治四十三年勅令第七十二號ヲ以テ同官制中改正）

（大正二年勅令第百九十四號ヲ以テ同官制中改正）

（大正七年勅令第一號ヲ以テ同官制中改正）

（大正八年勅令第百十六號ヲ以テ同官制中改正）

（大正九年勅令第三百七十二號ヲ以テ同官制中改正）

（大正十年勅令第百五十九號ヲ以テ同官制中改正）

（大正十年勅令第四百二十四號ヲ以テ同官制中改正）

○特許局官制（大正十一年一月十日勅令第二號特許局官制ノ改正ヲ以テ公布同年同月十一日ヨリ施行）

改正（大正十二年勅令第六十三號ヲ以テ同官制中改正）

（大正十三年勅令第三百六十五號ヲ以テ同官制中改正）

（大正十四年勅令第四十一號ヲ以テ同官制中改正）

（昭和二年勅令第百十八號ヲ以テ同官制中改正）

（昭和四年勅令第六十九號ヲ以テ同官制中改正）

特許局官制

第一條　特許局ハ商工大臣ノ管理ニ屬シ發明、實用新案、意匠及商標ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　特許局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官　勅任

事務官　專任二十四人　奏任　内二人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

技師　專任六十七人　奏任　内三人ヲ勅任ト爲スコトヲ得

屬　專任六十人　判任

技手　專任八十三人　判任

第三條　特許局ニ左ノ部ヲ置ク

總務部

審判部

機械部

化學電氣部

意匠商標部

總務部ニ於テハ出願、登錄、調査、公報及會計ニ關スル事務竝他ノ主掌ニ屬セサル事務ヲ

掌ル
審判部ニ於テハ抗告審判及審判ヲ掌ル
機械部ニ於テハ機械工業ニ關スル發明及實用新案ノ審査ヲ掌ル
化學電氣部ニ於テハ化學工業及電氣工業ニ關スル發明及實用新案ノ審査ヲ掌ル
意匠商標部ニ於テハ意匠及商標ノ審査ヲ掌ル

第四條　長官ハ商工大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ總理シ部下ノ職員ヲ指揮監督シ判任官以下ノ進退ヲ專行ス

第五條　削除

第六條　各部ニ部長ヲ置キ事務官及技師ヲ以テ之ニ充ツ
部長ハ上官ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第七條　特許局ニ抗告審判官、審判官及審査官ヲ置ク
抗告審判官ハ長官、事務官及技師ヲ以テ之ニ充テ抗告審判ヲ掌ル
審判官ハ事務官及技師ヲ以テ之ニ充テ審判ヲ掌ル
審査官ハ事務官及技師ヲ以テ之ニ充テ上官ノ命ヲ承ケ審査ヲ掌ル

第八條　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

第九條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第十條　特許局ニ審査官補ヲ置キ屬及技手ヲ以テ之ニ充ツ
審査官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ審査官ヲ助ケテ審査ニ從事ス

第十一條　屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十二條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十三條　特許局ニ陳列館ヲ置キ發明、實用新案、意匠及商標ニ關スル見本及雛形ヲ蒐集陳列シ公衆ヲシテ之ヲ觀覽セシメ且抗告審判、審判及審査ニ關スル圖書及書類ヲ保管シ公衆ヲシテ之ヲ閱覽セシム
陳列館長ハ事務官又ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

附　則

本令ハ大正十一年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

特許局分課規程（大正十一年一月十一日ヨリ施行同月十二日官報掲載）

改　正
（大正十一年九月十五日改正施行同月十六日官報掲載）
（大正十二年四月一日改正施行同月二日官報掲載）
（大正十三年十二月二十日改正施行同月二十二日官報掲載）
（昭和二年五月十九日改正施行同月二十日官報掲載）
（昭和二年五月二十七日改正施行同月二十八日官報掲載）
（昭和六年一月十三日改正施行同月十五日官報掲載）

第一條　總務部ニ庶務課、出願課、登錄課及調査課ヲ置ク

第二條　庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　機密ニ關スル事項
二　人事ニ關スル事項
三　長官ノ官印及局印ノ保管ニ關スル事項
四　會計ニ關スル事項
五　國有財產及物品ニ關スル事項

六 營繕ニ關スル事項
七 廳中取締ニ關スル事項
八 特許公報、特許發明明細書、實用新案公報、商標公報其ノ他ノ印刷物ノ編纂、發行及配布ニ關スル事項
九 辨理士ニ關スル事項
十 他ノ主掌ニ屬セサル文書ノ接受、發送及編纂、保存ニ關スル事項
十一 各部館課ノ主掌ニ屬セサル事項

第三條 出願課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 出願ニ關スル書類、見本及雛形ノ接受及發送ニ關スル事項
二 願書ノ方式調査ニ關スル事項
三 出願ニ關スル書類ニシテ處分確定ニ至ラサルモノノ整理及保管ニ關スル事項
四 出願又ハ請求ニ係ル事件ノ無效處分ニ關スル事項
五 期間懈怠ノ結果免除ニ關スル事項
六 審査ニ關スル費用額決定ニ關スル事項
七 出願又ハ請求ニ關スル照會及應答ニ關スル事項
八 證明、圖面ノ調製竝書類ノ閲覽、謄寫及謄本ニ關スル事項

第四條 登錄課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 原簿登錄ニ關スル事項
二 特許證、登錄證及其ノ複本下付ニ關スル事項
三 特許料及登錄料ノ收入ニ關スル事項
四 原簿ノ閲覽、謄寫及謄本ニ關スル事項
五 原簿登錄ニ關スル書類ノ接受、發送ニ關スル事項
六 原簿登錄ニ關シ押捺スヘキ局印ノ保管ニ關スル事項

第五條 調査課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 工業所有權ニ關スル內外國ノ制度及狀況調査ニ關スル事項
二 工業所有權ニ關スル涉外事項
三 特許權存續期間延長ニ關スル事項
四 特許法第十五條及第四十條乃至第四十二條ニ規定スル處分、實用新案法第二十六條ノ規定ニ依リ準用スル特許法第十五條及第四十條ニ規定スル處分竝商標法第四十一條ノ却定ニ依ル商標登錄ノ取消ニ關スル事項
五 專用權ニ關スル事項
六 統計ニ關スル事項

七　法令、例規ノ審議、立案ニ關スル事項

八　例規其ノ他參考資料ノ蒐集、編纂ニ關スル事項

九　文書ノ飜譯ニ關スル事項

十　發明、實用新案、意匠及商標ノ奬勵ニ關スル事項

第六條　審判部ニ書記課ヲ置ク

第七條　書記課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　審判及抗告審判ニ關スル書類、物件ノ接受及發送ニ關スル事項

二　審判及抗告審判ノ請求書ノ方式調査ニ關スル事項

三　審判及抗告審判ノ請求ノ期間懈怠ノ結果免除ニ關スル事項

四　審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用額ノ決定ニ關スル事項

五　審判及抗告審判ニ關スル書類ニシテ處分確定ニ至ラサルモノノ整理及保管ニ關スル事項

第八條　械械部ニ第一課、第二課、第三課及第四課ヲ置ク

第九條　機械部第一課ニ於テハ動力及機構ニ關スル發明及實用新案ノ審査ヲ掌ル

第十條　機械部第二課ニ於テハ交通、土木及建築ニ關スル發明及實用新案ノ審査ヲ掌ル

第十一條　機械部第三課ニ於テハ農藝及工作機ニ關スル發明及實用新案ノ審査ヲ掌ル

第十一條ノ二　機械部第四課ニ於テハ理學的裝置及製造機ニ關スル發明及實用新案ノ審査ヲ掌ル

第十二條　化學電氣部ニ化學課及電氣課ヲ置ク

第十三條　化學課ニ於テハ化學工業ニ關スル發明及實用新案ノ審査ヲ掌ル

第十四條　電氣課ニ於テハ電氣工業ニ關スル發明及實用新案ノ審査ヲ掌ル

第十五條　意匠商標部ニ意匠課及商標課ヲ置ク

第十六條　意匠課ニ於テハ意匠ノ審査ヲ掌ル

第十七條　商標課ニ於テハ商標ノ審査ヲ掌ル

特許局陳列館規程（大正十三年十二月二十日農商務省告示第二百八十六號）

第一章　通則

第一條　陳列品ノ觀覽、出品及圖書ノ閲覽ハ之ヲ無料トス

第二條　特許局長官必要ト認ムルトキハ觀覽又ハ閲覽ヲ拒絶シ又ハ圖書ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

第三條　特許局陳列館ニ於テハ日曜日、祝日、祭日及十二月二十五日ヨリ翌年一月七日迄ハ公衆ノ觀覽又ハ閲覽ヲ許サス

第四條　觀覽及閲覽時間ハ左ノ通トス但シ特許局長官必要ト認ムルトキハ臨時其ノ時間ヲ變更シ觀覽又ハ閲覽ヲ停止スルコトアルヘシ

四月一日ヨリ七月二十日迄

午前八時ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ午十二時迄トス

七月二十一日ヨリ八月三十一日迄

午前八時ヨリ午十二時迄

九月一日ヨリ十月三十一日迄

午前八時ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ午十二時迄トス

十一月一日ヨリ三月三十一日迄

午前九時ヨリ午後四時迄但シ土曜日ハ午十二時迄トス

第二章　出　品

第五條　發明、實用新案、意匠及商標ニ關スル見本、雛形及參考品ヲ出品又ハ寄贈セムトスル者ハ別記樣式ニ依リ其ノ申込ヲ爲スヘシ

第六條　出品又ハ寄贈ノ承諾ノ通知ヲ受ケタル者其ノ搬入豫定期日迄ニ其ノ物品ヲ差出ササルトキハ其ノ承諾ヲ取消スコトアルヘシ

第七條　出品物又ハ寄贈物ハ特許局陳列館宛差出シ且ツ其ノ入荷目錄ヲ荷造内ニ封入スヘシ

第八條　出品物又ハ寄贈物ニ關スル運賃其ノ他ノ費用ハ出品者又ハ寄贈者ノ負擔トス

第九條　出品者又ハ寄贈者ハ特許局長官ノ許可ヲ得テ出品物又ハ寄贈物ニ付實演ヲ爲シテ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ得

前項ノ實演ニ關シテハ總テ特許局長官ノ指揮ニ從フヘシ

第十條　特許局長官ハ陳列ノ都合ニ依リ期間ヲ指定シテ出品物ノ取換又ハ引取ヲ命スルコトアルヘシ

出品者指定セラレタル期間内ニ出品物ノ取換又ハ引取ヲ爲サヽルトキハ特許局長官ニ於テ適宜之ヲ處分スヘシ但シ出品者ハ事由ヲ具シ其ノ期間ノ猶豫ヲ求ムルコトヲ得

出品者ハ特許局長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ出品物ヲ取換ヘ又ハ其ノ返還ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條　出品者特殊ノ設備ヲ要シタル出品物ヲ引取リタル場合ニ於テハ自費ヲ以テ其ノ設備ヲ除去シ其ノ場所ヲ原狀ニ回復スヘシ

第十二條　出品物ノ亡失又ハ毀損ニ付テハ損害賠償ノ責ニ任セス

第十三條　陳列品ハ博覽會、共進會又ハ學校等ヘ出品又ハ貸與スルコトアルヘシ

前項ニ規定スル陳列品ノ出品又ハ貸與ニ關シテハ出品者ハ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第三章　圖　書

第十四條　圖書ヲ閲覽セムトスル者ハ閲覽證ノ交付ヲ受ケ之ニ所定ノ事項ヲ記入シテ差出スヘシ

第十五條　圖書ハ之ヲ閲覽室外ニ持出スコトヲ得ス

第十六條　圖書ハ之ヲ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十七條　閲覽ヲ了リタル圖書ハ遲滯ナク之ヲ返還スヘシ閲覽時間ノ經過シタルトキ亦同シ

(別記様式)

出品(寄贈)申込書

物品ノ名稱		數量	
特許又ハ登錄番號		單價	
工場所在地		販賣所	
搬入希望定期日			
其他			

右ノ物品陳列ノ爲貴館ヘ出品(寄贈)致度候也

年　月　日　住所

氏名　印

特許局陳列館御中

發明奬勵費交付規則

(大正六年十月十三日農商務省令第二十八號)(改正 大正七年農商務省令第二十三號 昭和二年商工省令第三號)

第一條　優良ナル發明ヲ誘掖奬勵スル爲本則ノ定ムル所ニ依リ每年豫算ノ範圍內ニ於テ發明奬勵費ヲ交付ス

第二條　奬勵費ノ交付ハ左ニ揭クル事項ニ付之ヲ爲スモノトス

一　有益ナル發明ノ見本製作並之ニ關スル試驗及研究

二　發明ニ關スル共進會ノ開設

三　發明奬勵ニ關スル講演會ノ開催

四　發明ノ懸賞募集

五　發明ノ表彰

六　發明ニ關スル研究室ノ設置

七　道、府縣發明品陳列所ノ設置並道、府縣陳列所ニ於ケル發明品ノ陳列

八　其ノ他商工大臣ニ於テ發明奬勵ノ爲必要ト認メタル事項

第三條　發明者、其ノ承繼人、發明ノ實施計畫者又ハ發明研究者ニシテ前條第一號ニ揭クル事項ニ付奬勵費ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ費用ノ豫算、補助ヲ受ケムトスル金額及補助ヲ必要トスル理由ヲ具シ商工大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

發明奬勵ヲ目的トスル公益法人ニシテ前條第一號ニ揭クル事項ニ付補助金ヲ交付スル爲奬勵費ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ補助豫定書、審査其ノ他補助金交付ニ關スル規程及審査員ノ氏名ヲ記載シタル書面ヲ添附シ商工大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

第四條　道、府縣、發明奬勵ヲ目的トスル公益法人其ノ他商工大臣ノ適當ト認ムル團體ニシテ發明品共進會ヲ開設シ又ハ其ノ開催ニ係ル共進會ニ發明ニ關スル出品ヲ爲ス爲費用ノ補助ヲ受ケムトスルトキハ事業計畫書、收支豫算書、共進會規則、審査規程及審査員ノ氏名ヲ記載シタル書面ヲ添附シ商工大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

第五條　第三條ノ規定ハ道、府縣、發明奬勵ヲ目的トスル公益法人其ノ他商工大臣ノ適當ト認ムル團體ニシテ第二條第三號乃至第五號ニ揭クル事項ニ付奬勵費ノ交付ヲ受ケムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第五條ノ二　第二條第六號ニ揭クル事項ニ付奬勵費ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ計畫ノ說明書、費用ノ豫算、補助ヲ受ケムトスル金額、補助ヲ必要トスル理由、法人ニ在リテハ尙定款竝最近ノ財產目錄及貸借對照表ヲ具シ商工大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

第五條ノ三　道、府縣ニシテ第二條第七號ニ揭クル事項ニ付奬勵費ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ計畫ノ說明書、費用ノ豫算、補助ヲ受ケムトスル金額及陳列所規則ヲ具シ商工大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

第六條　奬勵費交付ノ許可ヲ受ケタル者奬勵費交付申請書又ハ添附書類ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ商工大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第六條ノ二　第二條第六號ニ揭クル事項ニ付奬勵費ノ交付ヲ受ケタル者ハ商工大臣ノ指定スル期間每年其ノ研究ノ狀況ヲ報告スヘシ

第二條第六號ニ揭クル事項ニ付奬勵費ノ交付ヲ受ケテ爲シタル設備ハ商工大臣ノ承認ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第七條　奬勵費ハ見本又ハ施行報告書及收支計算書ノ提出又ハ實地檢査ノ後之ヲ交付スルモノトス

商工大臣必要ト認メタルトキハ前項ノ規程ニ拘ラス奬勵費ノ交付ヲ爲スコトヲ得

第八條　前條第二項ノ規定ニ依リ奬勵費ノ交付ヲ受ケタル者豫定ノ施行ヲ終了シタルトキハ其ノ報告書及收支計算書ヲ其ノ施行終了後一月內ニ商工大臣ニ提出スヘシ

第九條　第七條第二項ノ規定ニ依リ奬勵費ノ交付ヲ受ケタル者ノ經費支出額カ其ノ豫算額ニ達セサルトキハ商工大臣ハ其ノ交付シタル奬勵費ノ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

第十條　奬勵費交付ノ許可ヲ受ケタル者又ハ奬勵費ノ交付ヲ受ケタル者ニシテ許可ノ條件ニ違反シタルトキ、本則ノ規定ニ違反シタルトキ又ハ其ノ負擔ヲ減少シ其ノ他不正ノ行爲若ハ甚シキ怠慢アリト認ムルトキハ商工大臣ハ奬勵費交付ノ許可ヲ取消シ、奬勵費ノ金額ヲ

減少シ又ハ既ニ交付シタル奬勵費ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトヲ得

奬勵費ノ交付ヲ受ケタル者第八條ノ手續ヲ怠リタルトキ亦前項ニ同シ

第十一條　本則ノ規定ニ依リ商工大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第十二條　本則ノ規定ハ實用新案、意匠及商標ニ關シ之ヲ準用ス

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

内外國特許
及
一般法律事務

特許辨理士
法學士
鈴木德明

芝區田村町二丁目六番地一號
三友ビル横

電話銀座（57）一六七二番

內外國
特許・新案
意匠・商標
出願審判訴訟鑑定代理

前特許局審査官

辨理士
正五位
崎田弘

東京市日本橋區吳服橋二ノ三ノ二
西村ビルヂング內
電話日本橋（24）四〇五四番

萬國特許

東京市日本橋區吳服町三丁目七番地一
東京驛八重洲口
東京建物ビルディング
（電話日本橋
（三七〇六番

大江義秀特許事務所

所主 辨理士工學士 大江義秀
辨理士工學士 三上歲衛
辨理士工學士 佐藤清太郎

特許商標の出願及び審判
工業所有權に關する訴訟　代理

竹田特許法律事務所

東京丸ビル七階　電話丸之內三〇五八番

辯護士
辨理士　竹田彌藏

辨理士
工學士　市川一男

內外國特許

東京市芝區田村町二十五番地

內外特許事務所

前特許局審查官
辨理士　谷山謙雄

（電話芝三一一四番）

滿洲國商標法（邦譯）

教令第　　號

商標法

第一章　總則

第一條　營業トシテ自己ノ生産、製造、加工、選擇、證明、取扱又ハ販賣スル商品ナルコトヲ表彰スル爲メ商標ヲ專用セントスル者ハ商標ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

登錄ヲ受クルコトヲ得ヘキ商標ハ文字、圖形若ハ記號又ハ其ノ結合ナルコトヲ要ス

商標ハ之ニ施スヘキ色ヲ限定シテ登錄ヲ受クルコトヲ得

第二條　左ニ掲クル商標ハ之ヲ登錄セス

一　元首ノ肖像又ハ紋章ト同一又ハ類似ノモノ

二　國旗、國徽、國璽、軍旗又ハ勳章、褒章若ハ記章ト同一又ハ類似ノモノ

三　外國ノ元首ノ肖像若ハ紋章又ハ國旗、國徽若ハ軍旗ト同一又ハ類似ノモノ

四　白地ニ赤十字ノ記章又ハ赤十字若ハ「ジュネヴァ」十字ノ稱號若ハ文字ト同一又ハ類似ノモノ

五　秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ

六　同種ノ商品ニ廣ク慣用セラルル標章ト同一又ハ類似ノモノ

七　政府ノ開設シ若ハ政府ノ許可ヲ得テ開設スル博覽會又ハ外國ニ於ケル官設若ハ官許ノ

博覽會ノ賞牌若ハ賞状ト同一又ハ類似ノモノ但シ其ノ賞牌又ハ賞状ヲ受領シタル者カ其ノ商標ノ一部分トシテ使用セントスルトキハ此ノ限ニ在ラス

八　他人ノ肖像、姓名、名稱又ハ商號ヲ含ムモノ但シ其ノ承諾ヲ得タルモノハ此ノ限ニ在ラス

九　登錄失效後一年ヲ經過セサル他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ニシテ同種ノ商品ニ使用スルモノ但シ其ノ他人ノ商標カ登錄失效前一年以上使用セラレサリシモノナル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

十　商品ノ誤認又ハ混同ヲ生セシムル虞アルモノ

十一　他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ニシテ同種ノ商品ニ使用スルモノ

第三條　同種ノ商品ニ使用スヘキ自己ノ商標ニシテ相類似スルモノハ聯合ノ商標トシテノミ登錄ヲ受クルコトヲ得

第四條　同種ノ商品ニ使用スヘキ同一又ハ類似ノ商標ニ付登錄出願者二人以上アル場合ニ於テハ最先使用者ノ出願ニ限リ登錄ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テ既ニ使用セル者ナキトキ又ハ二人以上同時ノ使用ニ係ルトキ若ハ使用ノ前後不明ナルトキハ最先ノ出願ニ限リ登錄ヲ爲ス同日ニ二人以上ノ出願者アルトキハ出願者ノ協議ニ依リ登錄ヲ爲シ協議調ハサルトキハ登錄ヲ爲サス

第五條　商標ノ登錄ヲ出願スル者ハ實業部總長ノ定ムル商品ノ類別ニ從ヒ其ノ使用スヘキ商品ヲ指定スルコトヲ要ス但シ一出願ニ於テ指定シ得ヘキ商品ハ同一類内ノモノニ限ル

第六條　外國人ニシテ商標ヲ專用セントスル者ハ本法ニ依リ商標ノ登錄ヲ受クルコトヲ得

第七條　商標ノ登錄出願ニ依リ生シタル權利ハ其ノ營業ト共ニスル場合ニ限リ之ヲ移轉スルコトヲ得

商標ノ登錄出願ニ依リ生シタル權利カ共同出願ニ係ルトキハ他ノ出願者ノ同意アルニ非サレハ自己ノ權利ヲ讓渡スルコトヲ得ス

商標ノ登錄出願ニ依リ生シタル權利ノ承繼ハ相續ノ場合ヲ除クノ外承繼人ヨリ名義ノ變更ヲ屆出ツルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第八條　國内ニ住所居所及營業所ノ孰レヲモ有セサル者ハ國内ニ住所居所又ハ營業所ヲ有スル代理人ニ依ルニ非サレハ商標ノ登錄出願其ノ他ノ手續ヲ爲シ又ハ商標專用權若ハ商標ニ關スル權利ヲ主張スルコトヲ得ス

第九條　商標ニ關スル代理人ノ選任又ハ解任ハ商標局ニ屆出ツルコトヲ要ス

商標局長ハ商標ニ關スル代理人ヲ不適當ト認ムルトキハ之カ變更ヲ命スルコトヲ得

第十條　商標局長ハ正當ノ理由アリト認ムルトキハ職權又ハ請求ニ依リ商標局ニ對シ手續ヲ爲スヘキ法定ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

第十一條　商標ニ關スル出願及其ノ他ノ手續ヲ爲シタル者之ニ關スル爾後ノ行爲ニ付指定ノ期間ヲ懈怠シタルトキ又ハ登錄ヲ受クル際納付スヘキ登錄費ノ納付ヲ怠リタルトキハ商標局長ハ三月ノ猶豫期間ヲ置キ出願及其ノ他ノ手續ヲ無效ト爲スコトヲ得

第十二條　事由ヲ明ニシ商標ニ關スル證明、圖樣ノ抄寫又ハ文書ノ査閱若ハ抄錄ノ申請アリタルトキハ商標局長ハ祕密ヲ要スト認ムルモノノ外之ヲ許可スヘシ

第十三條　本法ニ於ケル期間ノ計算ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外民法ノ規定ヲ準用ス

第二章　商標專用權

第十四條　商標ノ登錄ヲ受ケタル者ハ第五條ノ規定ニ依リ指定シタル商品ニ付其ノ商標ヲ專用スルノ權利ヲ取得ス

第十五條　商標專用權ノ效力ハ普通ニ使用セラルル方法ヲ以テ自己ノ姓名、名稱若ハ商號又ハ其ノ商品ノ普通名稱、産地、品質、用途、形狀、效用、製法、數量若ハ價格等ヲ表示セルモノニ及ハス但シ惡意ヲ以テ姓名、名稱又ハ商號ヲ使用セルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　商標專用權ノ存續期間ハ登錄ノ日ヨリ二十年トス

前項ノ專用權存續期間ハ更新登錄ノ出願ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得但シ更新登錄ノ出願ニ係ル商標カ第二條第一號乃至第七號又ハ第十號ノ規定ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　商標專用權ハ營業ト共ニスル場合ニ限リ之ヲ移轉スルコトヲ得

商標專用權ハ分割シテ之ヲ移轉スルコトヲ得ス

聯合ノ商標ノ商標專用權ハ分離シテ之ヲ移轉スルコトヲ得ス

商標專用權カ共有ニ係ル場合ニ於テハ各共有者ハ他ノ共有者ノ同意アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

第十八條　商標專用權ノ移轉ハ相續ノ場合ヲ除クノ外其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第十九條　商標專用權ハ營業ノ廢止ニ依リ消滅ス

第二十條　商標登錄ノ無效又ハ取消ハ評定ニ依ル

第二十一條　登錄カ無效ト爲リタルトキハ商標專用權ハ初ヨリ存在セサリシモノト見做ス

登錄ノ取消アリタルトキハ商標專用權ハ取消アリタル日ヨリ其ノ效力ナキモノトス

第三章　登　錄

第二十二條　商標局ハ商標原簿ヲ備ヘ商標專用權ノ設定、移轉、變更、消滅其ノ他法令ニ定ムル事項ノ登錄ヲ爲ス

登錄ニ關スル規定ハ實業部總長之ヲ定ム

第二十三條　登錄ヲ爲スヘシトノ審定確定シ又ハ再審査ノ決定アリタルトキハ商標局ハ登錄

ヲ爲シ登錄證ヲ發給ス

第二十四條　商標局ハ商標公報ヲ發行シ商標ノ登錄及商標ニ關スル事項ヲ登載ス

第二十五條　商標ノ登錄ヲ受クル者ハ登錄ヲ受クル際左ノ登錄費ヲ納付スヘシ

一　商標專用權設定ノ登錄　每件五十圓

二　商標專用權ノ存續期間更新ノ登錄　每件七十圓

三　商標專用權ノ移轉ノ登錄相續ニ依ル場合　每件十圓

其ノ他ノ事由ニ依ル場合　每件二十圓

四　登錄事項ノ變更又ハ抹消　每件一圓

既納ノ登錄費ハ之ヲ返還セス

第四章　審査及再審査

第二十六條　商標ノ登錄又ハ商標專用權存續期間更新ノ登錄出願アリタルトキハ商標局長ハ審査官ヲ指定シテ之ヲ審査セシム

前項ノ規定ニ依ル審査官ハ審査ニ關シ獨立シテ職務ヲ行フ

第二十七條　審査官ハ出願ニ係ル商標カ他人ノ出願ニ係ル商標ト牴觸スト認メタル場合ニ於テハ各出願人ニ商標牴觸ノ通知ヲ爲シ期間ヲ指定シテ各出願人ニ商標使用ノ時期ニ關スル辯明書ヲ提出セシメ其ノ辯明書ヲ受理シタルトキハ之ヲ相手方ニ送達シ期間ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシムヘシ

第二十八條　審査官ハ出願ヲ拒絕スヘキモノト認メタルトキハ出願人ニ對シ拒絕ノ理由ヲ示シ期間ヲ指定シテ之ニ意見書提出ノ機會ヲ與フヘシ但シ前條ノ規定ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　審査ニ於テハ證據調ヲ爲スコトヲ得

證據調ヲ爲ス場合ニ於テハ通譯ヲ用ヰルコトヲ得

第三十條　證據調ノ費用ハ之ヲ豫納セシムルコトヲ得

審査ニ關シ爲シタル證據調ノ費用ノ負擔ハ職權ニ依リ其ノ事件ノ審定ヲ以テ之ヲ定ム此ノ場合ニ於テハ事情ニ依リ其ノ金額ヲモ決定スルコトヲ得

審定ヲ以テ證據調ノ費用ノ負擔ノミヲ定メタルトキハ其ノ金額ハ請求ニ依リ商標局長之ヲ決定ス

第三十一條　審査ハ審定ヲ以テ之ヲ終了ス

審定ニハ理由ヲ附スヘシ

第三十二條　審定ヲ受ケタル者不服アルトキハ其ノ審定ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ六十日以內ニ商標局長ニ對シ再審査ヲ請求スルコトヲ得

再審査ノ請求アリタルトキハ商標局長之ヲ審査ス

第二十六條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　再審査ノ請求ハ再審査請求書ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

再審査請求書ニハ一定ノ申立及理由ヲ記載スヘシ

第三十四條　再審査ニ於テハ再審査請求者ノ申立テサル事由ニ付テモ審査スルコトヲ得

第三十五條　第二十九條第三十條及第四十七條ノ規定ハ再審査ニ付之ヲ準用ス

第三十六條　第二十八條ノ規定ハ拒絶ノ審定ニ對スル再審査ニ於テ其ノ審定ノ理由ト異ナル拒絶ノ理由ヲ發見シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條　再審査ニ於テ審定ヲ破毀スル場合ニ於テハ更ニ審査ニ附スヘシトノ決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル決定アリタル場合ニ於テハ其ノ破毀ノ理由ト爲シタル事項ハ其ノ事件ニ付テハ審査官ヲ羈束ス

第三十八條　再審査ハ決定ヲ以テ之ヲ終了ス

決定ニハ理由ヲ附スヘシ

第三十九條　本法ニ規定スルモノノ外審査及再審査ニ關スル書類ニシテ送達スヘキモノ及送達ニ關スル規定ハ實業部總長之ヲ定ム

第四十條　民事又ハ刑事ノ訴訟ニ於テ必要アルトキハ法院ハ審定ノ確定又ハ再審査ノ決定アル迄其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第五章　評定

第四十一條　左記各號ノ一ニ該當スル場合ハ評定ニ依リ商標ノ登錄ヲ取消ス

一　商標專用權者正當ノ理由ナクシテ登錄ノ日ヨリ一年間其ノ商標ヲ使用セサリシトキ又ハ引續キ二年間其ノ使用ヲ中止セルトキ但シ聯合ノ商標ノ内少クトモ其ノ一ヲ使用セルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　商標專用權者故意ニ其ノ登錄商標ニ商品ノ誤認混同ヲ生セシムル虞アル附記又ハ變更ヲ爲シテ使用シタルトキ

前項第二號ノ規定ニ依リ登錄ヲ取消サレタル者ハ登錄ノ取消アリタル日ヨリ一年間同種ノ商品ニ付同一又ハ類似ノ商標ノ登錄ヲ受クルコトヲ得ス

第四十二條　左記各號ノ一ニ該當スル場合ハ評定ニ依リ商標ノ登錄ヲ無效ト爲ス

一　商標ノ登錄カ第一條乃至第四條前條第二項又ハ第七十條ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二　商標ノ登錄カ登錄出願ヨリ生シタル權利ノ承繼人ニ非サル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

三　第四條ノ規定ニ依ル場合ヲ除クノ外商標ノ登錄カ最先使用者ニ非サル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

但シ第七十條ノ規定ニ依リ登錄ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

商標專用權存續期間更新登錄カ左記各號ノ一ニ該當スル場合ハ評定ニ依リ之ヲ無效ト爲ス

一　登錄カ第十六條第二項但書ノ規定ニ違反シテ爲サレタルトキ

二　登錄カ商標專用權者ニ非サル者ノ爲ニ爲サレタルトキ

第四十三條　前二條ニ規定スル場合ニ於ケル取消及無效ノ評定ハ利害關係人又ハ審査官ニ限リ之ヲ請求スルコトヲ得但シ審査官ハ前條第一項第二號第三號若ハ第二項第二號ニ該當シ又ハ第二條第八號第九號第十一號第三條若ハ第四條ニ違反ストノ理由ニ依ル無效ノ評定ヲ請求スルコトヲ得ス

前條ニ規定スル場合ニ於ケル無效ノ評定ハ商標專用權消滅後ト雖前項ノ規定ニ從ヒ之ヲ請求スルコトヲ得

第四十四條　第四十二條ニ規定スル場合ニ於ケル無效ノ評定ハ登錄ノ日ヨリ三年ヲ經過シタルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得ス但シ同條第一項第三號ニ該當スル場合竝ニ第二條第一號乃至第七號第十號又ハ第四條ノ規定ニ違反ストノ理由ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十五條　利害關係人ハ商標專用權ノ範圍ノ確認ノ評定ヲ請求スルコトヲ得

第四十六條　評定ノ請求ハ評定請求書ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

評定請求書ニハ一定ノ申立及理由ヲ記載スヘシ

第四十七條　評定請求書カ法令ニ定メタル方式ニ違背シタル場合ニ於テハ評定長ハ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ欠缺ヲ補正スヘキコトヲ命スヘシ成規ノ手數料ヲ納付セサル場合亦同シ

請求人カ欠缺ノ補正ヲ爲ササルトキハ評定長ハ決定ヲ以テ評定請求書ヲ却下スヘシ

前項ノ決定ニハ理由ヲ附スヘシ

第四十八條　評定長ハ評定請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ被請求人ニ送達シ期間ヲ指定シテ答辯書ヲ提出セシムヘシ

評定ニ於テハ當事者ノ提出シタル書類ニ對シ相手方ヲシテ答辯書ヲ提出セシメ又ハ當事者ニ訊問書ヲ發シテ之ニ對スル意見書ヲ提出セシムルコトヲ得

第四十九條　評定ハ評定官三人ノ合議ニ依リ過半數ヲ以テ之ヲ決ス評定長ハ評定官中ノ上席者ヲ以テ之ニ充ツ

第五十條　評定官ハ各評定事件ニ付商標局長之ヲ指定ス

評定ニ干與スルニ故障アル評定官アルトキハ商標局長ハ其ノ指定ヲ解キ更ニ他ノ評定官ヲ以テ之ヲ補充ス

第二十六條第二項ノ規定ハ評定官ニ付之ヲ準用ス

第五十一條　評定ハ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ評定長口頭審理ニ依ルト爲シタル場合ノ外書

面審理ニ依ル

口頭審理ハ之ヲ公開ス但シ秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ評定長ハ其ノ公開ヲ停止スルコトヲ得

口頭審理ニ於テハ通譯ヲ用ヰルコトヲ得

第五十二條　第二十九條ノ規定ハ評定ニ付之ヲ準用ス

第五十三條　第三十條ノ規定ハ評定ニ關スル費用ニ付之ヲ準用ス

第五十四條　當事者カ法定若ハ指定ノ期間内ニ手續ヲ爲サス又ハ期日ニ出頭セサルトキト雖評定長ハ評定ヲ進行スルコトヲ得

第五十五條　評定ノ請求ハ其ノ審理ノ終結ニ至ル迄之ヲ取下クルコトヲ得但シ答辯書ノ提出アリタル後ニ於テハ相手方ノ承諾ヲ要ス

第五十六條　評定ニ於テハ當事者ノ申立テサル理由又ハ取下ケタル理由ニ付テモ之レヲ審理スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ理由ニ付當事者ニ期間ヲ指定シテ意見申立ノ機會ヲ與フヘシ

第五十七條　事件カ評定ヲ爲スニ熟シタルトキハ評定長ハ審理ノ終結ヲ當事者ニ通知スヘシ

評定長ハ必要アルトキハ前項ノ規定ニ依リ審理ノ終結ヲ通知シタル後ト雖申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ審理ノ再開ヲ爲スコトヲ得

第五十八條　評定ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外評決ヲ以テ之ヲ終了ス

評決ニハ理由ヲ附スヘシ

第五十九條　第三十九條ノ規定ハ評定ニ付之ヲ準用ス

第六十條　商標ノ登錄ノ效力又ハ商標權ノ範圍ノ確認ニ關スル評定ノ登錄アリタルトキハ何人ト雖同一事實ニ基キ更ニ同一ノ評定ヲ請求スルコトヲ得ス

第六十一條　民事又ハ刑事ノ訴訟ニ於テ必要アルトキハ法院ハ商標ノ登錄ニ關シ評決アル迄其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第六十二條　審査及再審査ノ證據調ノ費用額ノ決定竝ニ評定ニ關スル費用額ノ決定ハ強制執行ニ關シテハ執行力アル債務名義ト同一效力ヲ有ス

第六章　罰則

第六十三條　左記各號ノ一ニ該當スルモノハ三年以下ノ有期徒刑若ハ拘役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同種ノ商品ニ使用シタル者

二　前號ノ商品ヲ交付又ハ販賣シ若ハ交付販賣ノ目的ヲ以テ輸入シ又ハ所持スル者

三　他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同種ノ商品ニ使用セシムルノ目的ヲ以テ交付シ若ハ販賣シ又ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ所持スル者

四　他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同種ノ商品ニ使用スルノ目的又ハ使用セシムルノ目的ヲ以テ輸入シタルモノ

五　他人ノ登錄商標ヲ同種ノ商品ニ使用ノ目的又ハ使用セシムルノ目的ヲ以テ僞造又ハ模造シタル者

六　他人ノ登錄商標ヲ僞造若ハ模造スルノ目的又ハ僞造若ハ模造セシムルノ目的ヲ以テ其ノ用具ヲ製作、交付、販賣又ハ所持スル者

七　同種ノ商品ニ關シ他人ノ登錄商標ト同一又ハ類似ノモノヲ營業ニ用ヰル廣告看板引札又ハ取引書類ニ使用シタル者

第六十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ有期徒刑若ハ拘役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　詐僞ノ行爲ヲ以テ商標ノ登錄若ハ商標專用權存續期間更新ノ登錄ヲ受ケ又ハ受ケムトシタル者

二　登錄ヲ受ケサル商標ヲ登錄商標ト誤認セシムル方法ヲ以テ商品ニ使用シタル者

三　前號ノ商品ヲ交付シ販賣シ若ハ交付、販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持スル者

四　登錄ヲ受ケサル商標ヲ登錄商標ト誤認セシムル方法ヲ以テ營業ニ用ヰル廣告看板引札又ハ取引書類ニ使用シタル者

第六十五條　宣誓シタル證人鑑定人又ハ通譯カ商標局ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ有期徒刑又ハ拘役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事件ノ審定決定又ハ評決前ニ自白スルトキハ其ノ刑罰ヲ輕減又ハ免除ス

第六十六條　商標局ヨリ證人鑑定人又ハ通譯トシテ招カレタルモノ正當ノ理由ナクシテ其ノ招キニ應セス又ハ其ノ義務ヲ盡ササルトキハ百圓以下ノ過怠金ニ處ス

第六十七條　商標局ヨリ證據調ニ關シ書類其ノ他ノ物件ノ提出又ハ提示ヲ命セラレタル者正當ノ理由ナクシテ其ノ命ニ從ハサルトキハ百圓以下ノ過怠金ニ處ス

第六十八條　本法施行ニ關シ必要ナル規定ハ實業部總長之ヲ定ム

附　則

第六十九條　本法ハ大同二年十一月二十日ヨリ之ヲ施行ス

第七十條　大同元年三月一日前法令ニ依リ商標ノ登錄ヲ受ケ本法施行ノ際現ニ其ノ效力ヲ有スル者本法施行ノ日ヨリ一年以內ニ本法ニ依リ其ノ登錄ヲ出願スルトキハ第二條第十一號竝第四條ノ規定ニ拘ラス之ヲ登錄ス

前項ノ規定ニ依ル登錄費ハ每件四十圓トス

滿洲國商標法施行細則（邦譯）

商標法施行細則

第一章　總　則

第一條　商標局ニ對シ爲ス出願、請求其ノ他ノ手續ハ本則ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

書面ハ一件毎ニ一通ヲ作リ之ニ差出人ノ住所又ハ營業所及差出ノ年月日ヲ記載シ差出人記名捺印スヘシ

第二條　書面ハ國語ヲ以テ之ヲ認ムヘシ

代理權ヲ證スル書面、國籍證明書其ノ他ノ書類ニシテ外國語ヲ以テ認メタルモノニハ其ノ譯文ヲ添附スヘシ

第三條　商標局ニ書面ヲ差出ス者ハ相手方ニ送付スル爲必要ナル員數ノ副本ヲ差出スヘシ但シ相手方數人アル場合ニ於テ第二十四條但書ノ代表者アルトキハ其ノ代表者ノ數ニ應スル副本ヲ差出スヲ以テ足ル

第四條　代理人カ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ代理權ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第五條　外國人カ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ國籍ヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

前項ノ外國人カ法人ナルトキハ其ノ法人タルコトヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第六條　商標ニ關スル代理人ノ代理權ノ變更消滅ハ其ノ事實ヲ證スル書面ヲ添附シテ之ヲ屆出ツヘシ

第七條　前三條ノ規定ニ依リ差出スヘキ證明書ハ同時ニ數個ノ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ一ノ手續ニ付之ヲ差出シ其ノ他ノ手續ニ付テハ其ノ旨ヲ表示シテ其ノ差出ヲ省略スルコトヲ得

第八條　商標局ニ對シ商標又ハ商標專用權存續期間更新ノ登錄出願後其ノ出願ニ關シ書類其ノ他ノ物件ヲ差出ス者ハ之ニ其ノ登錄番號又ハ願書番號ヲ表示シ再審査又ハ評定ノ請求後其ノ請求ニ關シ書類其ノ他ノ物件ヲ差出ス者ハ之ニ再審査番號又ハ評定番號ヲ表示スヘシ

第九條　商標局ニ對シテ爲シタル出願、請求其ノ他ノ手續カ商標法若ハ本則ニ定メタル方式ニ違背シタル場合、其ノ手續ニ付代理權ヲ證スル書面ヲ差出サス若ハ成規ノ手數料ヲ納付セサル場合又ハ商標局ニ差出シタル書類若ハ見本カ不明瞭若ハ不完備ナル場合ニ於テハ商標局長ハ期間ヲ指定シテ其ノ訂正又ハ補充ヲ命スルコトヲ得

商標局ニ書類又ハ見本ヲ差出シタル者ハ審査、再審査又ハ評定ノ繫屬中ニ限リ之ヲ訂正シ又ハ補充スルコトヲ得但シ其ノ要旨ヲ變更スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十條　前條第二項ノ規定ノ適用ニ關シテハ單獨ノ商標登錄出願ヲ聯合ノ商標登錄出願ニ、聯合ノ商標登錄出願ヲ單獨ノ商標登錄出願ニ變更スルハ其ノ要旨ヲ變更スルモノト看做サス

第十一條　審査、再審査又ハ評定ニ關シ商標局長、評定長又ハ審査官必要ト認ムルトキハ當事者ニ對シ期間ヲ指定シテ見本ノ差出ヲ命スルコトヲ得

第十二條　商標局ニ差出シタル商標ノ印版又ハ見本ノ返還ヲ受ケムトスル者ハ差出ノ際其ノ旨ヲ申出ツヘシ

前項ノ印版若ハ見本又ハ商標局ニ差出シタル證據物件ハ商標局ヨリ還付ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ其ノ受取ノ手續ヲ爲スヘシ

差出人カ第一項ノ申出又ハ前項ノ手續ヲ爲ササルトキハ商標局長ハ其ノ印版若ハ見本又ハ證據物件ヲ處分スルコトヲ得

第十三條　商標局長、評定長又ハ審査官ハ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ商標法又ハ本則ニ依リ其ノ指定シタル期日又ハ期間ヲ變更スルコトヲ得

第十四條　審査、再審査又ハ評定ニ關スル書類ニシテ法令ニ送達スヘシトノ規定アルモノ、期日若ハ期間ヲ指定セルモノ又ハ送達ニ依リ期間ノ進行ヲ始ムルモノハ本則ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外郵便又ハ商標局ノ傳達夫ヲ以テ之ヲ送達ス

第十五條　郵便ニ依リ送達ヲ爲ス場合ニ於テハ配達證明郵便ヲ以テ之ヲ爲ス

第十六條　送達ヲ得クヘキ者ノ住所、居所、營業所其ノ他ノ送達ヲ爲スヘキ場所ノ知レサル場合又ハ前條ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ公示送達ヲ爲スコトヲ得
公示送達ハ送達スヘキ書類ヲ何時ニテモ送達ヲ受クヘキ者ニ交付スヘキ旨ヲ政府公報及商標公報ニ公告シ且商標局ノ掲示板ニ掲示シテ之ヲ爲ス
公示送達ハ政府公報公告ノ日ヨリ二十日ヲ經過スルニ依リ其ノ效力ヲ生ス
同一事件ニ付同一人ニ對シテ爲ス公示送達ニ付テハ政府公報及商標公報ノ公告ハ之ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ商標局ノ掲示板ニ掲示シタル日ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

第十七條　商標法第八條ニ規定スル代理人ノ存セサル場合ニ於テ國內ニ住所ヲモ居所ヲモ有セサル者ニ對シテ爲ス送達ハ書類ヲ郵便ニ付シテ之ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郵便ニ付シタル日ニ於テ送達アリタルモノト看做ス

第十八條　書類其ノ他ノ物件ノ差出ハ商標局ニ之カ到達シタル日時ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

第十九條　書類ノ謄本ヲ求メ又ハ書類若ハ見本ノ閲覽若ハ謄寫ヲ爲サムトスル者ハ口頭ヲ以テ之ヲ申請スルコトヲ得

第二十條　書類ノ謄本ニハ其ノ末尾ニ原本ト相違ナキコトヲ認證スル旨ヲ記載シ商標局官吏之ニ記名捺印スヘシ

第二章　出願

第二十一條　商標ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ第三十條ニ定ムル類別每ニ願書ヲ作リ之ニ商標見本五通及必要ナル說明書ヲ添ヘ商標局ニ差出スヘシ
着色シタル商標ノ登錄ヲ受ケムトスル場合ニ於テハ願書ニ其ノ色ヲ指定シ着色シタル商標見本五通ヲ差出スヘシ
前二項ノ規定ニ依リ差出スヘキ商標見本ハ强靱ナル紙料ヲ用ヒ其ノ長サ及幅ハ各二十「センチメートル」以內ノ面內ニ容易ニ變色又ハ褪色セサル繪具ヲ以テ鮮明ニ顯ハスヘシ

第二十二條　商標ノ登錄ヲ受ケムトスル場合ニ於テハ願書ニ之ト聯合スヘキ商標ヲ表示スヘシ聯合ノ商標ノ登錄ヲ受ケムトスル場合ニ於テハ願書ニ之ト聯合スヘキ商標ヲ表示スヘシ

第二十二條　商標ノ出願、請求其ノ他ノ手續ニ付差出シタル書類又ハ物件ヲ受理シタルトキハ商標局ハ受領證ヲ發給スヘシ

第二十三條　數人共同シテ商標ノ登錄ヲ出願スル場合ニ於テハ營業ヲ共ニスルコトヲ證スル書面ヲ差出スヘシ

第二十四條　數人共同シテ商標ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲スモノ又ハ商標專用權ノ共有者ハ商標局ニ對シ各人互ニ代表スルモノトス但シ特ニ代表者ヲ定メ商標局ニ屆出テタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　商標法第七條第三項ニ規定スル名義變更ノ屆出ヲ爲ス者ハ屆書ニ營業ト共ニスルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十六條　商標專用權存續期間更新ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ其ノ期間滿了前三月乃至一年以內ニ願書ヲ商標局ニ差出スヘシ但シ期間滿了ノ日ヨリ三十日前ニ限リ遲怠ノ事由ヲ疏明シテ之ヲ差出スコトヲ得

前項ノ願書ニハ商標見本五通及營業ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二十七條　商標局長商標又ハ商標專用權存續期間更新ノ登錄願書ヲ受理シタルトキハ之ニ番號ヲ附シ其ノ番號ヲ出願人ニ通知スヘシ

第二十八條　商標法第四條第二項後段ノ場合ニ於テハ商標局長ハ相當ノ期間ヲ指定シ其ノ期間內ニ協議ニ依リ登錄ヲ受クヘキ者ヲ定メ之ヲ屆出ツヘキ旨ヲ出願人及關係人ニ通知スヘシ

前項ノ期間內ニ屆出ナキトキハ商標局長ハ協議調ハサルモノト看做スコトヲ得

第二十九條　商標法第七十條ノ規定ニ依ル商標ノ登錄ヲ出願スル者ハ願書ニ原登錄證又ハ其ノ事實ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十條　商標登錄出願者ハ左ノ類別ニ從ヒ商標ヲ使用スヘキ商品ヲ指定スヘシ

第一類　化學品、藥劑及醫療補助品

酸類、鹽類、亞爾加里、漂白粉、樹脂、膠、燐、酒精、倔里設林、規那鹽、莫兒比涅、丁幾劑、舍利別、煎劑、水劑、浸劑、丸藥、膏藥、散藥、錠藥、煉藥、生藥、藥油、香精、石灰、硫黃、鑛水、麝香、打粉、食鹽、艾、黑燒、防腐劑、防臭劑、驅蟲劑、繃帶綿紗、綿撒絲、脫脂綿、海綿、「オブラート」、氷嚢、水枕等

第二類　染料、顏料、媒染料及塗料

藍玉、藍靛、紫根、紅、朱、丹、綠青、群青、洋靛、鉛白、胡粉、金銀粉、藤黃、染齒料、綠礬、明礬、漆、假漆、「ペイント」、澁、靴墨、革油、防鏽料、防水料、耐火塗料等

第三類　香料及他類ニ屬セサル化粧品

香水、香油、香袋、髮膏、白粉、化粧下等

第四類　石鹼

第五類　齒磨及他類ニ屬セサル洗料

齒磨粉、煉齒磨、齒磨液、洗粉、洗糠、洗液等

第六類　他類ニ屬セサル金屬及其ノ半加工品

銑鐵、鍛鐵、鋼鐵、條鐵、鐵葉、軌條、鐵板、鐵線、銅、銅板、銅線、鉛、鉛板、亞鉛、亞鉛板、錫、「アルミニユーム」、「ニツケル」、水銀、卑金屬ノ合金等

第七類　他類ニ屬セサル金屬製品

鑄物、打物、彫鏤品、編物、琺瑯鐵器、銅箔、錫箔等

第八類　利器及尖刃器

鎌、鋸、鑿、錐、鏨、斧、鉞、小刀、剃刀、庖丁、鉋、鑢、針、魚串、釘、鳶嘴等

第九類　貴金屬、其ノ模造物、「アルミニューム」金、「ニツケル」銀、「ブリタニヤ、メタル」及他類ニ屬セサル其ノ製品

金、銀、白金、四分一、紫銅其ノ他貴金屬ノ合金、鍍品、「モール」、金箔、銀箔、彫鏤品等

第十類　實玉類、其ノ模造物及他類ニ屬セサル其ノ製品

金剛石、珊瑚、眞珠、瑪瑙、水晶、黃玉、碧玉、彫鏤品等

第十一類　鑛物類

第十二類　石材、其ノ模造物及他類ニ屬セサル其ノ製品

大理石、花崗石、人造石、砥石等

第十三類　漆喰及土砂ノ類

漆喰、「セメント」、石膏、土瀝靑、土砂、火山灰等

第十四類　他類ニ屬セサル陶器、磁器、七寶製品、土器、瓦及煉瓦ノ類

第十五類　玻璃竝他類ニ屬セサル玻璃製品及琺瑯質品

玻璃板、玻璃管、玻璃壜、玻璃球等

第十六類　護謨、「ヱボナイト」、「ガタペルチヤ」、「ラバーサブスチチュート」及他類ニ屬セサル其ノ軟質製品

第十七類　他類ニ屬セサル機械器具及其ノ各部竝各種ノ調帶、「ホース」及「パツキング」

汽罐、汽機、織機、紡績機、裁縫機、印刷機、揚水機、消火器、潜水器、「バルブ」、「コツク」、皮革調帶、護謨調帶、綿布調帶、護謨「ホース」、布「ホウス」、アスベストス、パツキング」、「ゴム、パツキング」等

第十八類　理化學、醫術、測定、寫眞、教育用ノ器械器具、眼鏡及算數器ノ類竝其ノ各部

試驗管、外科用器械、齒科用具、度量衡器、感光膜、活動寫眞映畫、製圖器、體操用器具、顯微鏡等

第十九類　農工器具

犂、鋤、鍬、稻扱、桑扱、唐箕、杷、釘抜、鐵槌、繩墨、錑廻シ、「スコツプ」、「ショーベル」、鶴嘴等

第二十類　車輛、船舶其ノ他運搬用機械器具及其ノ各部

荷車、馬車、人力車、自動車、自轉車、小兒用車、航空機、鐵道車、車輪「タイヤー」、「サドル」、「ペタル」等

第二十一類　時計竝其ノ各部及附屬品

第二十二類　樂器、蓄音機竝其ノ各部及附屬品

「ピヤノ」、「オルガン」、「ヴアイオリン」、「マンドリン」、三絃、胡弓、琵琶、月琴、木琴、

笛、「ハーモニカ」、撥、樂器絃、蓄音機、音譜盤、蓄音機用針等

第二十三類　銃砲、彈丸及爆發物類

大砲、小銃、獵銃、短銃、火藥、綿火藥、「ダイナマイト」、雷管、煙火、水雷等

第二十四類　蠶種、野蠶種及繭

第二十五類　眞綿、木棉綿、麻、羽及毛ノ類並其ノ半加工品

第二十六類　生絲、絹絲、人造絹絲、野蠶絲、天蠶絲、金絲及銀絲

第二十七類　綿　絲

第二十八類　毛　絲

第二十九類　麻絲及第二十六類乃至第二十八類ニ屬セサル絲類

第三十類　絹織物

第三十一類　木綿織物

第三十二類　毛織物

第三十三類　麻織物

第三十四類　第三十類乃至第三十三類ニ屬セサル織物

第三十五類　他類ニ屬セサル絲類ノ編物、組物、撚物、「レース」、「ドロン」、「ウオーク」、刺繡品及各種ノ紐類

第三十六類　被服、手巾、釦鈕及裝身用「ピン」ノ類

衣服、冠、帽子、「カラ」、「カフス」、領飾、襟、襯衣、「ヅボン」下、胴締、手袋、足袋、「ハンカチーフ」、手拭「タオル」、袱紗、風呂敷、甲馳、カフス、ボタン」、「ネクタイ、ピン」「ブローチ」等

第三十七類　寢具及他類ニ屬セサル室内裝置品

寢臺、蒲團、枕、蚊帳、座蒲團、屛風、額、卓被、窓掛、敷物等

第三十八類　酒類及其ノ模造品

紹興酒、日本酒、味淋、白酒、燒酎、老酒、濁酒等

第三十九類　第三十八類ニ屬セサル各種ノ酒類及其ノ模造品

葡萄酒、「シャンパン」、麥酒、「ブランデイ」「ベルモット」、「ウヰスキー」等

第四十類　氷及清涼飲料類

曹達水、蜜柑水、「ラムネ」、「サイダー」、果實「シラツプ」、果實液等

第四十一類　醬油、「ソース」及酢ノ類

第四十二類　砂糖及蜜ノ類

白砂糖、黑砂糖、「ザラメ」、氷砂糖、糖蜜、蜂蜜等

第四十三類　菓子及麪麭ノ類

干菓子、蒸菓子、掛ケ物、「ビスケツト」、「カステーラ」、「ドロツプス」、「アイスクリーム」、飴、餅、砂糖漬、炒豆等

第四十四類　茶、珈琲、「ココア」及珈琲入角砂糖ノ類竝其ノ模造品

第四十五類　他類ニ屬セサル食料品及加味品

肉類、越幾斯類、卵、鰹節、海苔、昆布、荒布、佃煮、味噌、醬物、甘酒、漬物、胡椒等

第四十六類　獸乳、其ノ製品及其ノ模造品

牛乳、羊乳、「コンデンスミルク」、乳粉、「バタ」、人造「バタ」、「チーズ」等

第四十七類　穀菜類、種子、果物、穀粉、澱粉及其ノ製品

米、麥、粟、黍、稗、豆、蕈、乾瓢、球根、麴種、「モヤシ」、「ベーキング、パウダー」、「イースト、パウダー」、麥粉、葛粉、麪類、湯葉、豆腐、豆乳、蒟蒻、凍豆腐、凍蒟蒻等

第四十八類　煙草類

第四十九類　煙草具及袋物

煙管、煙草入、煙管筒、薄荷「パイプ」、紙入、貨幣入、名刺入、信玄袋、「オペラバツグ」等

第五十類　紙及他類ニ屬セサル其ノ製品

日本紙、西洋紙、板紙、壁紙、油紙、澁紙、書簡筒、張文匣、一閑張、張籌、水引等

第五十一類　文房具

筆、墨、印肉、印材、「インキ」、印刷「インキ」、石筆、鉛筆、萬年筆、「ペン」、「ペン」軸、硯、「インキ」壺、文鎭、筆筒、筆架、石盤、紙綴具、鉛筆削、「ブロツター」、「シース」等

第五十二類　皮革、其ノ模造品及他類ニ屬セサル其ノ製品竝各種ノ鞄類

毛皮、柔革、擬革紙、擬革布、馬具、革文匣、締革、「キヤツトガツト」等

第五十三類　固形燃料類

石炭、「コークス」、薪、炭、附木、懷爐灰等

第五十四類　燐寸

第五十五類　油脂及蠟ノ類

石油、菜子油、魚油、獸脂、木蠟、蜜蠟、蠟燭等

第五十六類　肥料

干鰯、油粕、肉粉、骨粉、血粉、糠、燐酸肥料、調合肥料、硫酸安母尼亞等

第五十七類　木竹材、籐、木皮、竹皮及經木ノ類

第五十八類　他類ニ屬セサル木、竹、籐、木皮、竹皮類ノ製品、其ノ漆塗品及蒔繪品ノ類

指物、挽物、曲物、編物、組物、桶、經木眞田等

第五十九類　骨、角、齒牙及甲殼ノ類、他類ニ屬セサル其ノ製品及其ノ模造品、他類ニ屬セサル「エボナイト」製品及「ガタペルチヤ」ノ硬質製品竝「セルロイド」及他類ニ屬

セサル其ノ製品

第六十類　藁、草及他類ニ屬セサル其ノ製品

麥稈、疊表、筵、蓆、笠、縄、麥稈眞田等

第六十一類　傘、杖、履物及其ノ附屬品

傘、洋傘、杖、靴、下駄、草履、雪駄、鼻緒、爪掛等

第六十二類　扇子及團扇ノ類

第六十三類　燈器及其ノ各部

洋燈、燭臺、提燈、火屋、燈蓋、瓦斯「バーナー」、瓦斯「マントル」、燭心等

第六十四類　頭飾品、調髮具及「リボン」ノ類、造花竝刷子類

櫛、笄、簪、「ヘヤ、ピン」、「ヘヤ、ネット」、手絡、根掛、髮止、髷形、元結、髢、附髷入毛、髮芯、髮掛「リボン」、裝飾「リボン」、歯刷子、化粧刷子、埃取刷子等

第六十五類　玩具及運動遊戲具

鞠、碁、將棋、人形、獨樂、弓、球突具、押繪、骨牌、野球具、庭球具、卓球具、擊劍柔道具等

第六十六類　圖畫、寫眞及印刷物類

書籍、新聞紙、雜誌、「アルバム」等

第六十七類　燻　料

線香、炷香、煉香、粉末香、蚊除線香、蚊除炷香、蚊除粉末香等

第六十八類　他類ニ屬セサル研磨料

磨粉、磨液、艶出布、艶出紙、研磨布、研磨紙等

第六十九類　電氣機械器具及其ノ各部竝電氣絶緣材料

發電機、電動機、廻轉變流機、整流機、周波數變換機、電信機、電話機、變壓器、電氣開閉器、電流制限器、電流制御器、抵抗器、電熱器、電氣扇風機、電鈴、眞空球、電氣醫療器、電氣測定器、電池、蓄電器、白熱電燈、弧光燈、懷中電燈、被覆電線、電氣絶緣用碍子、電氣機械器具用炭素、電氣絶緣用板、電氣絶緣用布、電氣絶緣用紙、電氣絶緣用護謨製品、電氣絶緣用混和物等

第七十類　他類ニ屬セサル商品

第三章　審査及再審査

第三十一條　審定ニハ左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ記名捺印スヘシ

一　願書番號

二　指定シタル商品ノ類別及商品名

三　出願人及代理人ノ氏名名稱

四　審定ノ主文及理由
五　審定ノ年月日
聯合ノ商標ヲ登錄スヘシトノ審定ノ主文中ニハ之ト聯合スル商標ノ登錄番號又ハ願書番號ヲ記載スヘシ
第三十二條　商標法第二十七條ノ規定ニ依ル商標牴觸ノ通知ニハ左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ記名捺印スヘシ
一　各商標ノ願書番號
二　各商標ニ付指定シタル商品ノ類別及商品名
三　各商標ノ出願人及代理人ノ氏名名稱及住所、居所又ハ營業所
第三十三條　審定アリタルトキハ商標局長ハ其ノ謄本ヲ出願人ニ送達スヘシ
第三十四條　再審査ノ請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一　請求人及代理人ノ氏名名稱及住所、居所又ハ營業所
二　事件ノ表示
三　一定ノ申立及理由
第三十五條　商標局長再審査ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ニ番號ヲ附シ其ノ番號ヲ請求人及關係人ニ通知スヘシ

第三十六條　再審査ノ決定ニハ左ノ事項ヲ記載シ商標局長之ニ記名捺印スヘシ
一　再審査番號
二　請求人及代理人ノ氏名名稱及住所、居所又ハ營業所
三　事件ノ表示
四　請求人ノ申立及理由ノ要領
五　決定ノ主文及理由
六　決定ノ年月日
聯合ノ商標ヲ登錄スヘシトノ決定ノ主文中ニハ之ト聯合スル商標ノ登錄番號又ハ願書番號ヲ記載スヘシ
第三十七條　決定アリタルトキハ商標局長ハ其ノ謄本ヲ請求人及關係人ニ送達スヘシ
第三十八條　登錄スヘシトノ審定又ハ決定ノ送達アリタルトキハ出願人ハ三十日以內ニ於テ商標局長カ指定シタル期間內ニ商標ノ印版一個ヲ商標局ニ差出スヘシ
前項ノ規定ニ依リ差出スヘキ印版ハ木版、細網版其ノ他活版印刷ニ適スルモノニシテ其ノ長サ及幅各十「センチメートル」以內厚サ二、四「センチメートル」ヲ超エサルコトヲ要ス
印版ハ一個ノ直角四邊形ノ版面ニ彫刻シテ之ヲ作成スヘシ
着色シタル商標ノ印版ニアリテハ相接スル二色ヲ分明ニ區別スル必要アル場合ニハ境界線

ヲ用ウルコトヲ要ス但シ其ノ商標ヲ構成スルモノト誤認セラルヘキ虞アル線、點又ハ地紋ヲ以テ着色シタル部分ヲ顯ハスコトヲ得ス

第三十九條　第四十三條及第五十條ノ規定ハ審査及再審査ニ關シ之ヲ準用ス

第四章　評　定

第四十條　評定請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　當事者及代理人ノ氏名名稱及住所、居所又ハ營業所

二　評定事件ノ表示

三　一定ノ申立及理由

四　利害關係

登錄ニ係ラサル標章ニ關シ商標專用權ノ範圍ノ確認評定ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ標章見本及之ヲ使用スル商品名其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル說明書ヲ差出スヘシ

第四十一條　共有ニ係ル商標專用權ニ付評定ヲ請求スル場合ニ於テハ其ノ共有者ノ全員ヲ以テ當事者ト爲スヘシ

第四十二條　商標局長評定請求書ヲ受理シタルトキハ之ニ番號ヲ附シ其ノ番號及其ノ事件ニ付指定シタル評定官ノ氏名ヲ當事者ニ通知スヘシ評定官ニ變更アリタルトキ亦同シ

第四十三條　評定請求書、答辯書其ノ他評定ニ關シ商標局ニ差出スヘキ書面ニハ必要ナル證據方法ヲ記載シ證據物件アルトキハ之ヲ添附スヘシ

前項ノ物件カ書面ナル場合ニアリテハ其ノ謄本ヲ、其ノ他ノモノナル場合ニアリテハ其ノ圖面又ハ見本ヲ商標局及相手方ノ數ニ應シテ差出スヘシ但シ見本ヲ差出ス場合ニ於テハ其ノ圖面一通ヲ其ノ圖面ヲ調製スル能ハサルトキハ說明書ヲ添附スヘシ

第四十四條　口頭審理ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ評定長ハ期日ヲ定メ之ヲ當事者ニ通知スヘシ

第四十五條　評定ノ當事者ハ口頭審理ニ於テ演述スヘキ事項ノ要領ヲ記載シタル書面ヲ豫メ商標局ニ差出スヘシ

第四十六條　口頭審理ニ於テハ調書ヲ作成シ評定長又ハ之ヲ作成シタル官吏之ニ記名捺印スヘシ

第四十七條　評定ノ請求ノ取下アリタルトキハ商標局長ハ其ノ旨ヲ相手方ニ通知スヘシ

第四十八條　評決アリタルトキハ商標局長ハ其ノ謄本ヲ當事者ニ送達スヘシ

第四十九條　評決ニハ左ノ事項ヲ記載シ評定官之ニ記名捺印スヘシ

一　評定番號

二　當事者及代理人ノ氏名名稱及住所、居所又ハ營業所

三　評定事件ノ表示

四　當事者ノ申立及理由ノ要領

五　評決ノ主文及理由

六　評決ノ年月日

第五十條　評定ノ費用額ノ決定ヲ受ケムトスル者ハ請求書ニ必要ナル員數ノ費用計算書及其ノ費用ヲ要シタルコトヲ證スル書面ヲ添ヘ之ヲ商標局長ニ差出スヘシ

第五章　登錄證、登錄費及手數料

第五十一條　登錄證ハ別記書式ニ依リ之ヲ作成シ之ニ商標見本ヲ貼附スヘシ

第五十二條　登錄證ヲ亡失シ又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ疏明シ再下付ヲ申請スルコトヲ得但シ毀損ノ場合ハ其ノ登錄證ヲ差出スヘシ

第五十三條　登錄費ハ登錄スヘシトノ審定確定シ又ハ決定ノ送達アリタル日ヨリ三十日內ニ之ヲ納付スヘシ

前項ノ期間ハ三十日ヲ限リ請求ニ依リ之ヲ延長スルコトヲ得

第五十四條　商標ノ出願、請求其ノ他ノ手續ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納付スヘシ

一　商標登錄出願　每一件　五圓

二　商標登錄出願人ノ名義變更屆　每一件　五圓

三　登錄證複本ノ申請　每一件　五圓

四　登錄證再下付ノ申請　每一件　五圓

五　商標專用權存續期間更新ノ登錄出願　每一件　五圓

六　再審査ノ請求　每一件　二十圓

七　評定ノ請求　每一件　三十圓

八　費用額決定ノ請求　每一件　一圓

九　費用額決定ノ執行力アル正本ノ請求　每一件　一圓

十　法定期間延長ノ請求　每一件　一圓

十一　商標法施行細則第二十六條第一項但書ノ請求　每一件　二圓

十二　商標法施行細則第五十三條第二項ノ請求　每一件　一圓

十三　指定期日又ハ指定期間ノ變更ノ請求　每一件　一圓

十四　證明ノ申請　每一件　一圓

十五　書類ノ謄本ノ申請

謄本一枚ニ付五角歐文書類ハ百語ニ付五角百語ニ滿タサルモ亦同シ但シ書類中圖面又ハ商標見本ハ商標見本一枚ニ付一圓以上三十圓以下ニ於テ商標局ノ定ムル所ニ依ル

十六　書類ノ閲覽又ハ謄寫ノ申請　每一件一時間五角一時間ニ滿タサル

モノ亦同シ

第五十五條　登錄費及手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

登錄費又ハ手數料ノ納付アリタルトキハ商標局ハ領收證ヲ發給スヘシ

附　則

第五十六條　本則ハ大同二年十一月二十日ヨリ之ヲ施行ス

別　記

第一號書式

登錄第　　號

商標登錄證

國籍（外國人ノ場合）

住所（營業所）　氏　名（名稱）

商標見本（貼附）

商標ヲ使用スヘキ商品名及其ノ類別

專用期間自大同　年　月　日至大同　年　月　日

前記商標ハ登錄スヘキモノト確定ス原簿ニ登錄シ茲ニ登錄證ヲ發給ス

年　月　日

商標局長　氏　名　印

第二號書式

登錄第　　號

聯合ノ商標ノ商標登錄證

國籍（外國人ノ場合）

住所（營業所）　氏　名（名稱）

商標見本（貼附）

商標ヲ使用スヘキ商品名及其ノ類別

聯合ノ商標ノ專用權登錄第　號

專用期間自大同　年　月　日至大同　年　月　日

前記商標ハ登錄スヘキモノト確定ス原簿ニ登錄シ茲ニ登錄證ヲ發給ス

年　月　日

商標局長　氏　名　印

滿洲國ニ於テ業トシテ商標ニ關スル出願、請求其ノ他ノ手續ニ關シ代理行爲ヲ爲ス者ノ取締ニ關スル規則

實業部部令第　　號

第一條　業トシテ商標ノ出願、請求其ノ他ノ手續ニ關シ代理行爲ヲ爲ス者ハ實業部總長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　前條ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ氏名、住所、事務所及經歷其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル願書ヲ商標局ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

前項ノ許可ヲ受ケムトスル者外國人ナルトキハ其ノ國籍ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三條　實業部總長ハ第一條ノ許可ヲ得タル者業務上不都合ノ行爲アリタル場合又ハ業務ヲ爲スニ不適當ナリト認メタル場合ニハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第四條　第一條ノ規定ニ違反シタル者ハ六月以下ノ拘役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本令ハ大同二年九月二十一日ヨリ之ヲ施行ス

特許及實用新案分類

特許發明及登錄實用新案分類ノ沿革及改正分類ノ方針

沿革

我國ノ特許發明ノ分類ハ、明治二十六年十一月ノ記錄ニ依レハ、總計三十五類、種別六百四十八種ニシテ、此ノ內第一類ヨリ第十一類迄化學工業ニ屬シ、第十二類ヨリ第三十五類迄ノ內、第十四類電氣工業ニ關スルモノヲ除キ、他ハ全部機械工業及日用器具ニ關スル發明ヲ配置セリ。

前記分類ノ標準ハ、主トシテ發明ノ用途ニ據リタルモノナリ、然レトモ物質又ハ方法ニ關スル發明ノ如キニ於テハ、往々其ノ性質ニ隨テ分類ヲ定メタルモノアリトス。

次ニ明治二十八年三月ニ於テハ、類別ニ變更ヲ加ヘタル點ナキモ、種別ニ於テ百五十種ヲ增加シ、總計七百九十八種ヲ設ケタリ、而シテ現今迄使用セラレタル分類ト其ノ骨子ニ於テ相類似スルモノハ實ニ明治三十年五月ニ至リ採用セラレタルモノニシテ、此ノ分類ニ依レハ第一類ヨリ第四十四類迄機械工業ニ屬シ、第四十五類ヨリ第七十二類迄化學工業ニ屬シ、第七十三類ヨリ第八十二類迄電氣工業ニ屬シ而シテ第八十三類以下第百十二類ニ至リ、日用器具ニ關スル發明ヲ配置セリ、總計一百十二類ナルモ別ニ種別ノ設ナカリキ。

明治三十四年五月ニ至リ、類別ニ於テ二十四類ヲ増加シ、總計一百三十六類ヲ設ケ其ノ類名及配列ノ順序ニ於テ、現今迄使用セラレタルモノト毫モ異リタル所ナシト雖、末タ種別ヲ設ケス、種別ヲ新ニ設ケタルハ、明治四十二年二月ノ交ニシテ、總計一千二百三十七種ニ及ヘリ、卽チ現在迄使用シ來リタル類別ハ、二十年以前ノ制ニシテ、種別ハ十三年以前ノ制ナリト云フヲ得ヘシ、而シテ今回ノ改正ハ實ニ第七回目ニ屬ス。

改正分類ノ方針

外國ノ例ヲ見ルニ、英國、米國、獨逸國ニ於ケルカ如ク、「ローマ」字ノ配列ニ據リタルモノアリ又佛國ノ如ク各種工業ノ種類ニ從テ、大體ノ區別ヲ爲シ、更ニ區分シテ類別ヲ設ケタルアリ、前者ノ例ニ在リテハ、工業ノ發達ニ從ヒ、増設スヘキ新分類ノ爲、「ローマ」字ノ配列ハ、時ト共ニ攪亂セラレタル結果ヲ現出セリ、後者ニ於テハ、右ノ如キ憂ナキモ、分類カ絶ヘス修正セラルヘキハ前者ト異ナル所ナシ、我國ノ分類ハ從來各種工業別ニ依リ、大體ノ配置ヲ爲セルハ後者ニ近似セリ、而シテ今回ノ改正ニ於テハ從來ノ配置ヲ成ルヘク攪亂セサルコトニ努メタルモノトス、但シ根本的ニ配置ヲ變更シタル所モ亦尠カラス。

機械工業ニ關スル發明考案ニ於テハ、視覺、聽覺、「エネルギー」ノ利用等人類能力ノ根元ニ關スル發明考案ヲ始メニ配置シ、工作技巧ニ關スルモノ、及殖産製造ニ關スルモノヲ次トシ、最後ニ日用家具ニ關スル發明考案ヲ羅列セリ。

化學工業ニ關スル發明考案ニ於テハ、始メ原料ニ關スル發明考案ヲ配置シ、比較的加工ノ程度進ミタルモノノ發明考案ヲ次ニ配列セリ。

電氣工業ニ關スル發明ニ於テハ、電磁氣材料及發電、電動等該工業ノ基礎タルヘキモノヲ始メニ配置シ、電氣ノ應用ニ關スルモノヲ後ニシタルモノナリ。

各分類中ニ包括セラヘキモノノ所屬ヲ定ムルニハ、大體ニ於テ發明又ハ考案ノ用途ヲ主トシタルモノトス、然リト雖モ之ノミニ依リテ分類スルトキハ不便尠カラサルヲ以テ、發明又ハ考案ノ性質互ニ相近似スルモノヲ集メテ類ヲ設ケタルモノアリ、例ヘハ第十二類焚火裝置ニ於テ見ルカ如シ、又一物ヲ數途ニ兼用セシムルヲ以テ發明又ハ考案ノ目的ト爲ス如キモノノ歸屬ヲ定ムルニハ、專ラ發明又ハ考案ヲ加ヘタル本來ノ物品ニ據ルト雖モ、發明又ハ考案ヲ加ヘタル結果、本來ノ物品ノ性能ヲ一變シタル如キモノニ在リテハ、適宜相當ト認ムル所ニ屬セシムルモノトス、故ニ特許又ハ登錄番號ヲ目標トセスシテ物品又ハ發明考案ノ名稱ノミニ依リ或ル特許發明又ハ登錄實用新案ノ所在ヲ求ムルニ當リテハ關係各類ニ亙リ遺漏ナキ調査ヲ行フノ必要アリトス。

機械工業之部

理學的裝置……四一九
一 測定器……四一九
二 寫眞器……四二二
三 光學器械……四二三
四 音響記錄及音響復生……四二三
原動機……四二三
五 蒸汽喞子機關……四二三
六 蒸汽タービン……四二三
七 凝汽器……四二三
八 壓氣原動機……四二三
九 內燃機關……四二三
一〇 水力原動機……四二四
一一 風力原動機……四二四
熱ノ利用……四二四
一二 焚火裝置……四二四
一三 煙突及通風……四二四
一四 蒸汽發生器……四二五
一五 煖房及乾燥……四二五
一六 煖爐及暖器……四二六
一七 溫水罐……四二六
一八 火用具……四二六
一九 保溫、保冷及冷却……四二七
流體操作……四二七
二〇 喞筒……四二七
二一 扇風機……四二八
二二 撒水、噴霧及給濕……四二八
二三 蓄力器及流體容器……四二八
二四 管及管接手……四二八
二五 弇及活栓……四二九

機構……四二九
二六　固着具……四二九
二七　傳動裝置……四二九
二八　雜機構……四三〇

交通運輸……四三〇
二九　信號及通信……四三〇
三〇　運搬及扛重……四三一
三一　車輛……四三一
三二　車輪……四三二
三三　潛水……四三三
三四　船舶……四三三
三五　航空……四三三
三六　推進……四三四

災害防止……四三四
三七　消防……四三四
三八　救難……四三四

武器……四三四
三九　銃砲、弓弩……四三四
四〇　彈丸、火具……四三五
四一　水雷……四三五
四二　軍用機具……四三六

清淨及衞生……四三六
四三　刷子及掃除具……四三六
四四　洗濯具……四三七
四五　衞生具……四三七
四六　醫療具……四三七

築造及採鑛……四三八
四七　軌道……四三八
四八　土木……四三八
四九　建築……四三八
五〇　堀鑿及浚渫……四三九
五一　採鑛……四三九

工作機……四三九
五二　破碎機……四三九
五三　混合機、攪拌機及分離機……四四〇
五四　濾過機及淨氣機……四四〇
五五　冶金機……四四〇
五六　鑄工……四四〇
五七　截斷機、截刻機及打拔機……四四一
五八　打鎚機……四四一
五九　壓搾機及壓展機……四四一
六〇　削成機……四四一
六一　鑽孔機及削孔機……四四二
六二　旋盤及旋削機……四四二
六三　旋刃機(ミリング、マシン)……四四二
六四　研磨機……四四二
六五　包裝機……四四二
六六　塗布機及貼附機……四四三
六七　雜工具……四四三

殖産……四四四
六八　農藝……四四四
六九　脫穀……四四四
七〇　脫稃……四四五
七一　精穀……四四五
七二　山林及園藝……四四五
七三　捕獲及驅除……四四五
七四　馬具……四四六
七五　養畜……四四六
七六　養蠶……四四六
七七　水産……四四七

纖維加工……四四八
七八　製絲機……四四八
七九　纖維取扱……四四八
八〇　紗綯及紡績……四四九
八一　絲條取扱……四四九
八二　製網機……四四九
八三　編機……四五〇
八四　編物……四五〇

八五 組機……四五〇
八六 組物……四五一
八七 織機……四五一
八八 斷片織機……四五二
八九 織物……四五二
九〇 布帛整理機……四五二
九一 染色機……四五三
九二 裁縫及刺繡……四五三
九三 製紙機……四五四
九四 印刷機……四五四
製造機……四五四
九五 製粉機……四五四
九六 飲食物製造機……四五五
九七 製茶機……四五五
九八 煙草製造機……四五五
九九 燐寸製造機……四五五
一〇〇 紙品製造機……四五六
一〇一 靴及皮革品製造機……四五六
一〇二 藁草品製造機……四五七
一〇三 木竹品製造機……四五七
一〇四 可塑品製造機……四五八
一〇五 窯業品製造機……四五八
一〇六 金屬品製造機……四五九
一〇七 雜種製造機……四六〇
表示及販賣……四六一
一〇八 表示具及札……四六一
一〇九 廣告機……四六一
一一〇 販賣機……四六一
文具……四六二
一一一 文房具……四六二
一一二 印字機……四六三
一一三 計算器……四六三
一一四 教習具……四六三
運動及娯樂……四六四

一一五 運動具及娯樂具……四六四
一一六 樂器……四六五
裝身具……四六五
一一七 被服……四六五
一一八 帶及紐……四六六
一一九 冠物……四六六
一二〇 容飾具及理髮具……四六七
一二一 傘及杖……四六七
一二二 履韈……四六八
容器……四六八
一二三 金庫及貨幣容器……四六八
一二四 鞄及袋物……四六九
一二五 箱……四六九
一二六 壜、罐及樽……四七〇
一二七 雜種容器……四七一
一二八 包裝……四七二
庖厨及喫煙……四七二
一二九 庖厨具……四七二
一三〇 煮炊具……四七二
一三一 厨爐……四七三
一三二 飲食具……四七三
一三三 喫煙具……四七三
家庭具……四七四
一三四 梯子及登攀器……四七四
一三五 家具……四七四
一三六 卓、机及椅子……四七五
一三七 鎖鑰……四七五
一三八 儀禮具及裝飾具……四七五
一三九 燈具……四七六
一四〇 止鉤具……四七七
一四一 寢具及敷物……四七七
一四二 便器及厠……四七八
一四三 雜具……四七八

化學工業之部

化學藥品及用具……四七八
一四四　無機化合物……四七八
一四五　有機化合物……四七九
一四六　非金屬元素……四七九
一四七　電氣化學……四七九
一四八　化學試驗用具……四七九
一四九　蒸溜及蒸發……四八〇
燃料……四八〇
一五〇　燃料……四八〇
一五一　瓦斯……四八〇
一五二　鑛油……四八〇
金屬……四八一
一五三　冶金……四八一
一五四　金工……四八一
窯業……四八一
一五五　陶磁器、煉瓦及耐火用品……四八一
一五六　硝子及琺瑯……四八一
一五七　セメント、人造石及瀝青質物……四八二
脂油……四八二
一五八　脂油……四八二
一五九　石鹼及蠟燭……四八二
塗料及接着劑……四八二
一六〇　顏料……四八二
一六一　塗料……四八二
一六二　髹漆……四八三
一六三　接着劑……四八三
燐寸及火藥……四八三

一六四　燐寸……四八三
一六五　火藥及爆發物……四八三
纖維及染料……四八四
一六六　纖維……四八四
一六七　製紙……四八四
一六八　染料……四八四
一六九　染色……四八四
印刷及寫眞……四八五
一七〇　印刷……四八五
一七一　寫眞……四八五
飲食物及嗜好物……四八五
一七二　製糖……四八五
一七三　製鹽……四八五
一七四　飲食物……四八六
一七五　釀造……四八六
一七六　煙草……四八六
衞生材料……四八六
一七七　醫藥……四八六
一七八　化粧料……四八六
一七九　防腐及驅蟲……四八七
一八〇　汚物處理及火葬爐……四八七
可塑物……四八七
一八一　護謨……四八七
一八二　可塑物……四八七
雜化學工業……四八八
一八三　皮革……四八八
一八四　肥料……四八八
一八五　木竹品處理……四八八
一八六　化學雜工……四八八

電氣工業之部

電氣磁氣材料……四八九
一八七 電氣傳導……四八九
一八八 電氣絶緣……四八九
一八九 磁　氣……四八九
電氣機械……四九〇
一九〇 發電及電動……四九〇
一九一 變　電……四九〇
送電及電氣制御……四九〇
一九二 送電及配電……四九〇
一九三 電氣制御及電氣調整……四九一
一九四 電氣開閉器……四九一
電氣磁氣測定……四九一
一九五 電氣及磁氣計器……四九一
一九六 電氣的及磁氣的測定……四九一
電氣通信……四九一
一九七 電信及電話（有線）……四九一
一九八 電氣信號及電氣表示……四九二
一九九 高周波電氣通信……四九三
電熱應用……四九三
二〇〇 電　燈……四九三
二〇一 電　熱（電氣爐ヲ除ク）……四九三
電力應用……四九三
二〇二 電氣鐵道……四九四
二〇三 電動機應用……四九四
電氣化學……四九四
二〇四 電　池……四九四
二〇五 電氣爐……四九四
雜電氣應用……四九四
二〇六 電氣治療……四九四
二〇七 電氣雜工……四九五

特許及實用新案分類

機械工業之部

◉理學的裝置

第一類　測定器

イ 度器
一 直尺曲尺及疊尺
二 卷尺
三 捲尺
四 身長計
五 綱繩類計長器
六 度器雜

ロ 量器
七 桝
八 流水計量器
九 瓦斯計量器
一〇 自働量器
一一 量器雜

ハ 衡器
一二 桿秤
一三 臺秤
一四 天秤
一五 自働秤
一六 衡器雜

ニ 時計
一七 日時計
一八 暦時計
一九 勤務時間記錄器
二〇 懷中時計
二一 文字盤及側
二二 報時裝置
二三 時計雜

ホ　測量器

二四　經緯儀及水準儀
二五　平板測量器
二六　基線ヲ有スル距離測量器
二七　距離測量器
二八　三脚
二九　標杆
三〇　測量器雜

ヘ　羅針器

三一　磁氣羅針器
三二　廻轉儀型羅針器
三三　羅針器雜

ト　航路記錄及指示

三四　航路記錄及指示

チ　測深器

三五　測深器

リ　液面計

三六　氣罐水面計類
三七　液面計雜

ヌ　水平器及傾斜計

三八　水面器及傾斜計

ル　壓力計

三九　ブルドン壓力計
四〇　氣壓計
四一　壓力計試驗機
四二　壓力計雜

ヲ　測力器

四三　動力計
四四　體力計
四五　測力器雜

ワ　材料試驗機

四六　材料試驗機

カ　回轉計

四七　回轉計

ヨ　速度計

四八　速度計

タ　度數計

四九　度數計

レ　個數計

五〇　個數計

ソ　行程計

五一　行程計

ツ　選別機

五二　貨幣選別機
五三　繭雌雄選別機
五四　選別機雜

ネ　溫度計

五五　體溫計
五六　寒暖計
五七　溫度警報裝置（第二十九類火災熱警報裝置參照）

ナ　濕度計

五八　濕度計

ラ　氣象ニ關スル雜測定器

五九　氣象ニ關スル雜測定器

ム　生理ニ關スル雜測定器

六〇　生理ニ關スル雜測定器

ウ　震動計

六一　震動計

キ　比重計

六二　比重計

ノ　測定器雜

六三　測定器雜（照明計、光度計其他）

第二類　寫眞器

一　寫眞撮影裝置（寫眞撮影兼活動寫眞撮影裝置ハ第三類活動寫眞器ヲ見ヨ）
二　寫眞暗函
三　寫眞シヤツター
四　取枠
五　印書器
六　閃光器
七　暗函用臺脚
八　寫眞處理用具（洗滌、現像、定着乾燥其他處理具一切）

九 寫眞器雜（鏡玉其他雜具）

第三類 光學器械

一 透鏡及反射鏡
二 顯微鏡
三 望遠鏡
四 雙眼鏡
五 眼鏡「メガネ」（防塵眼鏡ハ第四五類防塵眼鏡ヲ水中眼鏡ハ第三三類潜水雜ヲ見ヨ）
六 覗眼鏡
七 幻燈器
八 天然色活動寫眞器
九 實體活動寫眞器
一〇 連續映寫活動寫眞器
一一 發聲活動寫眞器
一二 活動寫眞器雜
一三 活動寫眞附屬具
一四 光學實驗裝置
一五 光學器械雜

第四類 音響記錄及音響復生

イ 蓄音器其他ノ音響復生裝置
一 發音匣
二 喇叭
三 手働蓄音器
四 自働休止裝置
五 自働復歸裝置
六 自働連奏蓄音器
七 蓄音器其他ノ音響復生裝置雜（音譜盤ハ第一八二類音譜盤ヲ見ヨ）
ロ 音響記錄裝置及音響記錄兼復生裝置
八 音響記錄裝置及音響記錄兼復生裝置

◉原動機

第五類 蒸汽喞子機關

一 直線往復動機關
二 直線往復動機關部分
三 直線往復動機關弁及弁機構
四 旋回機關
五 擺動機關
六 機關調整裝置
七 蒸汽喞子機關雜

第六類 蒸汽タービン

一 蒸汽タービン方式
二 蒸汽タービン配置及連絡
三 蒸汽タービン部分構造
四 蒸汽タービン主軸附屬部分
五 蒸汽タービン調整裝置
六 蒸汽タービン雜

第七類 凝汽器

一 觸面凝汽器
二 噴水凝汽器
三 抽氣裝置及抽水裝置（第二〇類特種排氣裝置參照）
四 凝汽器雜

第八類 壓氣原動機

一 熱空氣機關
二 壓縮空氣機關
三 瓦斯壓原動機
四 壓氣原動機雜

第九類 內燃機關

一 內燃機關一般型式及裝置
二 內燃機關一般的部分構造
三 瓦斯機關
四 氣化石油機關（揮發油機關、石油機關）
五 直接燃油機關（石油機關、重油機關）
六 旋回內燃機關及內燃タービン

七　特種內燃機關
八　內燃機關用氣化器及蒸發器
九　內燃機關用燃料噴射器
一〇　內燃機關用燃料供給及調整機構
一一　內燃機關用電氣着火裝置
一二　燒玉及內燃機關用火熱着火裝置
一三　內燃機關逆轉裝置及始動裝置
一四　內燃機關冷却裝置
一五　內燃機關催滑裝置
一六　內燃機關消音裝置
一七　內燃機關雜

第十類　水力原動機

一　水車
二　反動タービン
三　衝動タービン
四　タービン調整裝置
五　潮力原動裝置
六　波濤原動裝置
七　水壓原動機
八　水力原動機雜

第十一類　風力原動機

一　風車
二　風力原動機雜

◉熱ノ利用

第十二類　焚火裝置

一　給炭機
二　爐及爐格
三　爐內完全燃燒裝置
四　粉末燃料燃燒裝置
五　燃油裝置
六　瓦斯爐及瓦斯發生燃燒爐
七　汽罐爐
八　焚火裝置雜

第十三類　煙突及通風

一　煙突及煙道(列車排煙管ノ如キ)
二　吸出通風裝置
三　壓力通風裝置
四　煤煙除却裝置及スパーク、アレスター
五　煙突掃除具
六　煙突及通風雜(家屋通風ハ第四九類換氣裝置ヲ、車輛通風ハ第三一類鐵道客車及貨車等ヲ見ヨ)

第十四類　蒸汽發生器

一　水管式汽罐
二　火管式汽罐
三　火室內水管取付方
四　雜種蒸汽發生器
五　蒸汽過熱器
六　給水裝置(給水加熱裝置、給水調整裝置給水清淨裝置等)
七　罐水循環裝置
八　汽罐清淨裝置
九　汽罐部分
一〇　汽罐爐(第一二類汽罐爐ヲ見ヨ)
一一　蒸氣發生器雜(管閉塞器等)

第十五類　煖房及乾燥

イ　煖房
一　熱氣煖房裝置
二　溫水煖房裝置
三　蒸汽煖房裝置
四　煖房雜
ロ　乾燥
五　乾燥用熱氣裝置
六　繭乾燥機
七　布帛乾燥機
八　肥料乾燥機
九　穀類乾燥機
一〇　麵帶乾燥機
一一　植物質乾燥機